

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **83** 2023
冬号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.26

難病克服支援
第2回MBT映画祭



～みんなで守るいのち～
第2回 難病克服支援
MBT映画祭
2023/1/14. Sat
12:00-19:30
[開場: 11:30]
有楽町マリオン11階有楽町朝日ホール
観覧ご希望の方は下記のサイトまたはQRコードよりお申し込みください。
<https://pro.form-mailer.jp/fms/2663675d257988>
観覧希望者募集中!

入場無料!

映先く
ごま

メインプログラム

コンペティション入賞作品上映 / 監督たちのトークセッション / 審査結果発表と表彰

スペシャルプログラム

特別講演 | 「医療的ケア児との人生」
特別上映 | 「Coda コーダ あいのうた」 第94回アカデミー賞受賞作品賞 助演男優賞・脚本賞

特別講演 | 「医療的ケア児との人生」
特別講師 | 奥野順子氏 野村浩子氏
特別上映 | 「Coda コーダ あいのうた」
出演 | 大友良英 高橋文子 木村心美 大友良英 高橋文子 木村心美 大友良英 高橋文子 木村心美

主催 | 奈良県立医科大学
協賛 | 奈良県立医科大学MBTコンソーシアム
後援 | 奈良県立医科大学看護学部
協賛 | 奈良県立医科大学理学療法学部
協賛 | 奈良県立医科大学薬学部
協賛 | 奈良県立医科大学歯学部
協賛 | 奈良県立医科大学保健体育学部
協賛 | 奈良県立医科大学人間生活学部
協賛 | 奈良県立医科大学経済学部
協賛 | 奈良県立医科大学工学部
協賛 | 奈良県立医科大学農学部
協賛 | 奈良県立医科大学文学部
協賛 | 奈良県立医科大学教育学部
協賛 | 奈良県立医科大学芸術学部
協賛 | 奈良県立医科大学国際学部
協賛 | 奈良県立医科大学環境学部
協賛 | 奈良県立医科大学情報学部
協賛 | 奈良県立医科大学デザイン学部
協賛 | 奈良県立医科大学体育学部
協賛 | 奈良県立医科大学音楽学部
協賛 | 奈良県立医科大学芸術学部
協賛 | 奈良県立医科大学国際学部
協賛 | 奈良県立医科大学環境学部
協賛 | 奈良県立医科大学情報学部
協賛 | 奈良県立医科大学デザイン学部
協賛 | 奈良県立医科大学体育学部
協賛 | 奈良県立医科大学音楽学部

〒837-8581 奈良県橿原市大宮町1-1
TEL: 0744-29-9962
FAX: 0744-29-9963
E-mail: nara-med@nara-med.ac.jp

〒837-8581 奈良県橿原市大宮町1-1
TEL: 0744-29-4651
FAX: 0744-29-4652
E-mail: mbt@nara-med.ac.jp

主催 | 奈良県立医科大学
協賛 | 奈良県立医科大学MBTコンソーシアム
後援 | 奈良県立医科大学看護学部
協賛 | 奈良県立医科大学理学療法学部
協賛 | 奈良県立医科大学薬学部
協賛 | 奈良県立医科大学歯学部
協賛 | 奈良県立医科大学保健体育学部
協賛 | 奈良県立医科大学人間生活学部
協賛 | 奈良県立医科大学経済学部
協賛 | 奈良県立医科大学工学部
協賛 | 奈良県立医科大学農学部
協賛 | 奈良県立医科大学文学部
協賛 | 奈良県立医科大学教育学部
協賛 | 奈良県立医科大学芸術学部
協賛 | 奈良県立医科大学国際学部
協賛 | 奈良県立医科大学環境学部
協賛 | 奈良県立医科大学情報学部
協賛 | 奈良県立医科大学デザイン学部
協賛 | 奈良県立医科大学体育学部
協賛 | 奈良県立医科大学音楽学部

Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.26	3
外国人研究者等を受け入れています	4
研究紹介	7
MBT 研究所だより (第 27 報)	10
先端医学研究支援機構だより	11
図書館だより	12
働き方改革だより	13
国際交流センターだより vol.10	14
未来への飛躍基金だより	15

Topics

Campus News

「医学物理士」を知っていますか？	16
故島本郁子氏が藍綬褒章を受けました	17
大和平野中央田園都市構想推進のための事業募集にて採択されました	17
奈良先端大との連携活性化委員会を開催しました	17
株式会社 MBT ジョブプレオネを奈良医大発ベンチャー企業に認定しました	17
奈良県立医科大学健康フェア 2022 を開催しました	18
東京根津・千駄木下町まつりで MBT サービスを出展しました	18
大和平野中央田園都市構想フォーラムで MBT 実証実験を紹介しました	18
令和 4 年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催しました	19
奈良県主催の漢方シンポジウム 2022 に参加しました	19
奈良県防災総合訓練に MBT ブースを出展しました	19
「HANAZONO EXPO」の出展内容を検討しました	19
技術士全国大会で MBT 講演をしました	20
医科学英語「代表学生エキシビジョンディベート&100人ジャッジ」	20
HANAZONO EXPO に MBT ブースを出展しました	21
奈良県立高等技術専門校の訓練生に構内の剪定作業を行っていただきました	21
高度医療技術修得者の認定証交付式について	21
経団連「地域共創アクションプログラム」交流会に参加しました	21
「近畿地方 DMAT ブロック訓練」と連携した災害医療訓練を実施しました	22
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が資金調達を実施しました	22
奈良医大発ベンチャー モルミル株式会社が第 2 回 Challenge 万博に登壇しました	22
「女性に対する暴力をなくす運動」の啓発活動を実施しました	23
横断的共同研究助成事業研究成果報告会を開催しました	23
医科大学附属病院南側地区のまちづくりに関する連携協定を締結しました	23
医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	24
「第 2 回 MBT 映画祭」の企画調整を行いました	24
MBT 公開講座「MBT 活動進展報告」を開催しました	24
奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました	25
大和平野中央田園都市構想関連事業 MBT モニター説明会を行いました	25
人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました	25
MBT ウエルシア薬局健康ステーションを開催しました	25
令和 4 年度第 2 回キャンパスミーティングを開催しました	26
大会議室の歴代学長肖像画を修復しました	26
高大連携教育を推進しています	26
難病克服支援第 2 回 MBT 映画祭を開催しました	27

Winner Report

第 65 回日本手外科学会学術集会 若手研究者賞	28
第 76 回日本口腔科学会学術研究会で Rising Scientist 賞を受賞しました	28
第 46 回日本頭頸部癌学会において優秀ポスター賞を受賞しました	28
第 58 回日本医学放射線学会秋季臨床大会で教育展示優秀賞を受賞しました	28
令和 4 年度救急医療功労者の厚生労働大臣表彰を受賞いたしました	29
第 81 回日本癌学会で若手研究者ポスター賞を受賞しました	29
第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議において最優秀演題賞を受賞しました	29
第 42 回国際整形外科学会において Shanmuga S. Jayakumar Award を受賞しました	29
第 81 回日本公衆衛生学会総会で口演賞を受賞しました	30
第 81 回日本公衆衛生学会総会で最優秀演題賞を受賞しました	30
2021 年度バイエルレチナ・アワードを受賞しました	30
APLAR 2022 Excellent Abstract Award on JCR を受賞しました	31
第 126 回 日本眼科学会総会で学術展示優秀賞を受賞しました	31
日本口腔外科学会研究助成「次世代若手臨床研究推進プロジェクト」に採択されました	31
医学教育等関係業務功労者表彰	31
日本癌治療学会で最優秀演題賞を受賞しました	31
令和 4 年度 日本消化呼吸学会学会賞を受賞しました	32
第 26 回日本心不全学会学術集会で優秀演題賞を受賞しました	32
第 26 回日本心不全学会学術集会 Young Investigator's Award (YIA) 最優秀演題賞	32
第 48 回日本神経内分泌学会学術集会で学会賞を受賞しました	32
日本神経内分泌学会川上賞を受賞しました	33
第 38 回日本脳神経血管内治療学会学術集会で優秀ポスター賞金賞に選ばれました	33
日本臨床麻酔学会第 42 回大会メディカルスタッフセッションで最優秀演題賞を受賞しました	33
令和 4 年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	33
第 108 回北米放射線学会 Education Exhibit で Certificate of Merit Award を受賞しました	34
第 108 回北米放射線学会 (RSNA2022) で Cumlaude 賞を受賞しました	34
ASH2022 で Abstract Achievement Award を受賞しました	34
令和 4 年度 外部資金獲得状況	34

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	39
メディア掲載情報	40

経営審議会での国際交流の議論

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大には法律に基づく二つの審議会があります。教育研究審議会と経営審議会です。教育研究審議会は毎月1回開催され、教育と研究に関する事項を審議しています。経営審議会は年3回開催され、奈良医大の経営全般について、特に外部委員から貴重なご意見をいただいております。

外部委員は医療界、教育界だけでなく、経済界からもご参加いただいております。直近では、昨年の12月9日に開催されました。NTT西日本元社長の大竹様から、奈良医大の医師、看護師や学生の国際交流について意見が述べられました。奈良医大は10以上の海外の有力大学と連携しており、未来への飛躍基金を用いて学生を海外研修に派遣しています。大竹様からは、もっと海外から奈良医大で研修をする学生を受け入れるようにすれば、1名の外国からの医師、看護師や学生が奈良医大の多くの学生と交流するので、効果が大いというご指摘がありました。

そのような折り、学内で若い外国人の方を見かけましたので声をかけました。ドイツから3か月間の予定で奈良医大に研修に来られた医学生でした。奈良医大の学生や医師との交流について話をすると賛同され、その結果、「英語で学ぶ医学・看護学アドホック委員会」主催で他のドイツ人学生も交えて“Let's talk with German Students”を2月1日に催しました。

すでにいくつかの教室では、海外からの研修者を受け入れておられますので、これを拡充したいと考えています。本号にその特集のページを設けましたので、ご覧いただけたら幸いです。



学生、研修医、大学院生のみなさん

Let's talk with German Students

ドイツ人学生と英語で話してみませんか？

奈良医大附属病院で実習中のドイツ人学生を囲んでの交流会です。お茶を飲みながら自由に話しましょう。気軽にご参加ください。

【日 時】	2023年 2月 1日 (水) 17:00 ~ 18:00
【場 所】	基礎棟5階 小講義室
【定 員】	10名 (先着順)

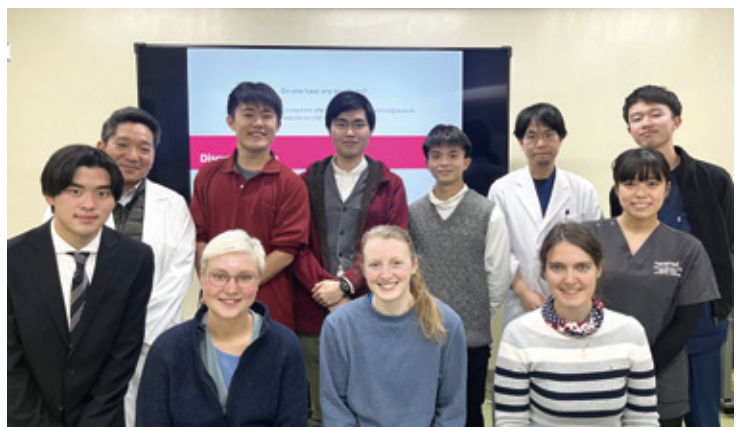
参加希望者は、国際交流センターまでメールで連絡してください。
kouda@naramed-u.ac.jp

◆問い合わせ先：国際交流センター 幸田友紀
(基礎医学棟4階 研究推進課内 内線2479)

主催：英語で学ぶ医学・看護学アドホック委員会



ドイツ人学生のプレゼンを熱心に聞き入る参加者



交流会参加者で記念撮影

外国人研究者等を受け入れています

本学大学院で学んでいます

大学院医学研究科博士課程 脳神経機能制御医学 (脳神経外科) 3年

Riju Dahal

Hello, I am Rizu Dahal from Nepal. Nepal is known as the Himalayan Kingdom because it houses the highest mountains in the world. I love trekking in the mountains and have an absolute passion for it.

Currently I am a graduate student in Nara Medical University in the Department of Neurosurgery. My interest is in epilepsy surgery. My research is studying the effect of anesthesia on various epileptogenic biomarkers on intraoperative electrocorticography during surgery. I have been in Japan for 3 years now and it has been one of the most transformative experiences, both personally and professionally. I have learnt a lot academically from the wonderful neurosurgeons in our department. I have learnt a lot about myself too.

I think Japan exists in perfect harmony between modern and traditional and it has been very interesting to experience it. I have come to admire Japanese culture, people and food a lot. I am certain that the things I have experienced by coming to study in Japan will shape many aspects of my personality and future in days to come. I hope to forever carry the same disciplined, hardworking and humble mindset as the Japanese as I step out into the world.

Thank you for having me in this lovely country.



MESSAGE

脳神経外科学 教授
中瀬 裕之

リズ先生はネパールからパント教授の紹介で当教室に留学されています。現在、文部科学省奨学金留学生として田村健太郎先生の指導の下でてんかんの研究を行っています。研究内容は、「海馬硬化がない側頭葉てんかんの焦点切除術における術中のバイオマーカー高周波振動・PACの麻酔濃度変化に対する反応性の検討」です。今後、母国のてんかん外科治療の成績向上につながる成果であると考えています。

本学での実習はいかがですか？

Sirima Phoowanakulchai 先生 (麻酔科)

2022.6.1 ~ 2023.5.31 ・ マヒドン大学シリラート病院

I have heard about Nara Medical University for a long time since there has been a collaboration of medical student exchange between this university and Chiangmai university for more than 10 years. I was recommended to attend the neuro anaesthesia fellowship program here due to the recognized anesthesia technique and the well-known neuromonitoring team. Prof. Kawaguchi has published several studies and book chapters in the field of neuroanesthesia and neuromonitoring. He also has vast experience

MESSAGE

麻酔科学 教授 川口 昌彦

2022年6月より1年間、タイの病院の麻酔科医であるSirima Phoowanakulchai先生を研究生として受け入れさせていただいています。神経麻酔や神経モニタリングの臨床・研究に従事していただいています。とても明るく日本語も積極的に勉強してくれています。どうぞよろしくお願いたします。

as a lecturer at international meetings and serving in various neuroanesthesia and neuromonitoring societies. He is very open-minded, caring and always has a positive attitude.

I would like to thank Prof. for this great opportunity. Apart from rich knowledge and splendid technique, I have experienced many Japanese traditions and culture, particularly the Japanese language. Finally, I feel very thankful to all staff and friends here for all your help. I would recommend here to all my friends in Thailand!



なぜ本学を選んだのですか？

Philipp Nitsche (学生・循環器内科・呼吸器内科)

2022.11.2～2023.1.15・フリードリヒアレクサンダー大学

I chose the Nara Medical University because out of the possible universities that German students are allowed to visit Nara medical university has some of the best reviews from students that have already been abroad in Japan. This fact and being located in the neighbourhood of Nara, Kyoto and Osaka brings a great opportunity to visit some of the most iconic cultural sights in all of japan.

From 21th of November until 16th of December I have been visiting the cardiovascular department of the Nara Medical University. I felt very welcomed by all the doctors that made my stay an unforgettable experience. I was able to observe procedures



MESSAGE

循環器内科学 准教授 渡邊 真言

循環器内科では心臓カテーテル手技、循環器画像診断、外来診療を実習できるようにプログラムを組んで対応しました。我々の説明に真剣に耳を傾け、メモを取って知識を吸収しようとする彼の熱心な姿勢は大変印象的であり、我々医局員にとっても英語を通じて彼とコミュニケーションをとることができたのは大変刺激的でした。

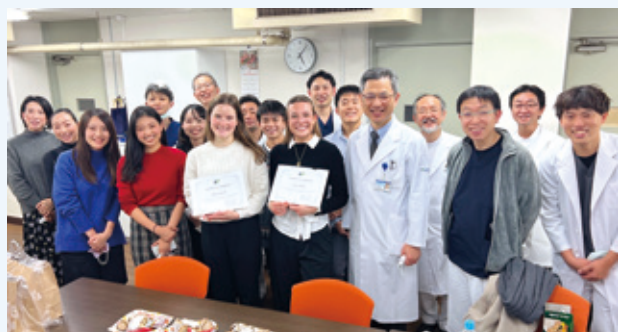
like percutaneous coronary interventions, pulmonary vein isolations, TAVIs, pacemaker implantations, echocardiography and more. Every day I was taken good care of and was patiently taught about patients cases, their diseases and how to treat them.

I want to thank the department of cardiovascular medicine for welcoming and teaching me and I will highly recommend them to other foreign students.

多くの研究者等を受け入れている教室から

消化器・総合外科学 教授 庄 雅之

当教室では、これまでドイツからの医科大学生の実習を度々受け入れてきました。コロナでしばらく中断していましたが、今回10月末から約2か月間、レーゲンブルク大学のMeike ShcmittとJessica Bizugaの二人が研修を終了しました。カンファレンスへの参加や手術見学が中心ですが、これまでのドイツの学生達は総じて優秀で真摯に研修を行ってきました。奈良医大での時間は良い経験、思い出となっているようで、SNS等での伝達で本学への実習希望が続いているようです。研修中は医局内カンファレンスも英語で行っており、教室の先生達は多少の負担を感じているかもしれませんが、英語スキルの向上とともに国際学会や英文論文発表には役立つものと思います。



整形外科学 教授 田中 康仁

整形外科ではこれまで過去10年間でアジアの国々を中心に、合計41名の海外からのclinical fellowを受け入れてまいりました。それぞれの期間は1か月～1年で、研修分野は足の外科、手・マイクロサージェリー、膝・スポーツ医学、脊椎外科など様々であります。彼らには専門知識のみならず、日本のはじまりの地である橿原の魅力をも十分に伝えられたのではないかと考えております。今井町のゲストハウスも大変好評であります。先日、台湾の先生から生まれたお嬢さんの名前を“奈良”ちゃんにしたと知らせてくれました。本学の良さを帰国後も自国で伝え続けていただけを期待いたしております。



外国人研究者等を受け入れています

外国人研究者・学生の受入状況 (R2,R3 は受入れなし)

区分	年度	診療科目	氏名	国	
医師	H30 (2018)	整形外科	Gun-Woo Lee	韓国	
			Saran Malisorn		
			Surapot Salao	タイ	
			Wipoo Somsuk		
			Chen-Chie, Wang	台湾	
			Chun-Yu, Chen		
			Xiangjun Cheng	中国	
			Modi Yang		
			Adriel Vincent Lim Ang	フィリピン	
			Juan Agustin D. Coruña		
			Chan Wai Chung, Cherry	香港	
			Mohd Shaffid bin Md Shariff	マレーシア	
			Amer Alomari	ヨルダン	
			皮膚科	Bing Wang	中国
			産婦人科	Maria Lopez	ドイツ
			麻酔科	Sintip Pattanakuhar	タイ
	Ajay Prasad Hrishi Puzhankara	インド			
	放射線・核医学科	Taehwan Kim	韓国		
	ICU・NICU・ 小児センター	Kraiwan Kaphan	タイ (チェンマイ看護師)		
		Saowanuch Somsri			
	R1 (2019)	整形外科	Ying-Cheng Huang	台湾	
			Ming Lu	中国	
			Shiqiang Wu		
			CHAN Chun Fung		
			Ho Yiu Pong	香港	
			Lo Chi Wai		
			Yip Kin Nam		
臨床英語			Josef Bradac	ニュージーランド	
脳神経外科		Riju Dahal	ネパール		
		Gurung Protam			
	Jeyul Yang	韓国			
放射線・核医学科	Ching Charoenvisal	タイ			
R4 (2022)	整形外科	Ananto Satya Pradana	インドネシア		
		Anne Marie M. Milo	フィリピン		
		Jerre C. De Guzman			
		Tunku Naziha Binti Tunku Zainudin	マレーシア		
		Norliyana Binti Mazli			
		Aurélie INIESTA	フランス		
		Sittha Chuekitkumchorn	タイ		
		Xiaolu Zhang	中国		
		リハビリテーション科	Shabrina Narasati	インドネシア	
		麻酔科	Sirima Phoowanakulchai		
	Jatuporn Eiamcharoenwit		タイ		
	Putthachat Ragpaiboon				
	放射線・核医学科	Worapat Maitriwong	タイ		

区分	年度	診療科目	氏名	国
学生	H30 (2018)	消化器・総合外科 胸部・心臓血管外科	Meraj Neyazi	ドイツ
			Sina Al-kershi	
		精神科	Patrick Gollob	オーストリア
		脳神経内科	Elena Velasquez	オーストリア
		整形外科、精神科、 脳神経外科、 皮膚科、救急科	Kanyakorn Lananta	タイ (チェンマイ大学)
			Tanchanok Konghoemphun	
			Teepagon Tonggon	
			Nitchakarn Hongsuphan	
	R1 (2019)	消化器・総合外科	Annika Majer	ドイツ
			Melanie Girst	
			Peter Werkmann	
		消化器・総合外科 胸部・心臓血管外科	Lam-Thanh Ly	ドイツ
			腫瘍センター	Nina Kahsnitz
		Lynn Ermert		
		Ruken Yildiz		
		感染症センター	Surat Nunthavichitra	タイ
		救急科、産婦人科	Masaaki Fukushima	ニュージーランド
脳神経内科		Nadun Rajapaksa	オーストラリア	
R4 (2022)	総合診療科	Michelle Alexandra Rist	ドイツ	
	消化器・総合外科	Jessica Bizug	ドイツ	
		Meike Schmitt		
		Malte Steinbach		
	胸部・心臓血管外科	Caroline Strohschein	ドイツ	
	循環器内科 消化器内科	Philipp Nitsche	ドイツ	
	消化器・総合外科 整形外科	Merle Classen	ドイツ	
	消化器・総合外科 胸部・心臓血管外科	Annalena Goesttsche	ドイツ	
産婦人科	Susan Trumpelmann	ドイツ		

ストレスの神経生物学とともに歩む



解剖学第一 教授 西 真弓

私は薬学部を卒業後、大学院には進まず、薬学部時代に不完全燃焼であった経験から、もう一度学問にチャレンジしてみたいという思いで医学部に再入学しました。奈良県立医大を定年退職するにあたり、これまでの私の歩んだ道を振り返り、医学部で研究・教育をすることになった経緯と所感について簡単にご紹介させていただきます。

私は1980年に京都大学薬学部卒業後、愛知県がんセンターを経て、京都府立医科大学に再入学しました。神経科学研究の盛んな医科大学であり、在学中は神経解剖学の佐野豊教授の講義に魅了されましたが、卒業後は臨床も研究もと欲張り、比較的早く一人前になれる麻酔科に入局し臨床を経験しました。麻酔学は神経科学研究と深く関わる学問分野でもあったことから、大学院へ進学し、実際の研究は河田光博教授が主宰される第一解剖学教室において、脳におけるステロイドホルモンとその受容体に焦点を置き、ストレスの神経生物学の研究を始めました。大学院の2年間に単位互換制度を利用して米国ニューヨーク大学へ留学し、Efrain Azmitia 教授のもとで脳におけるステロイドホルモンとセロトニンの研究に注力しました。帰国後、お世話になっていた神経解剖学教室に助手のポストが一つ空いていたこともあり、採用していただく機会に恵まれ、留学中から非常に興味があったバイオイメーキングの研究を始めるチャンスをいただきました。そのころ日本国内でもGFPを用いた研究が始まりかけたところで、留学中にたまたまCold Spring Harborのセミナーで知り合った日本のバイオイメーキングの草分けの研究者である平岡泰先生(現、大阪大学特命教授)に早速相談し、ライブセルイメーキングのシステムの立ち上げに力を注ぎました。留学中の戦闘モードが抜けきらず、とにかく当時の私は何事にもアクティブで、努力したかいもあり、私たちは日本においていち早くGFPを用いてグルココルチコイド受容体の動態を生きている神経細胞内でイメーキングすることに成功しました。"Seeing is believing!"、研究の面白さにはまりました。

その後、2009年8月1日付けで奈良県立医科大学第一解剖学講座の教授として着任いたしました。8月1日が日曜日であったため、8月2日に当時の吉岡章学長先生から辞令をいただきました。今でも忘れ得ぬほど、気候的にとても暑く、そして私にとっては新しい教室立ち上げに心が燃える、二重に熱い日でした。研究者として自分の研究室を持ち、独立するということは私の大きな夢でもありましたが、これまで研究をもにしてきた部下を同行することもなく、単身での奈良医大着任となり、意欲と、そして一抹の不安が交錯する中での出発でした。着任後、研究のテーマはストレス関連受容体のライブセルイメーキングから、幼少期ストレスが脳に及ぼす影響についての研究へシフトし、母子分離マウスを用いて遺伝子と環境の相互作用を切り口に、分子から行動レベルまで生物階層性の段階を追って研究を進めました。さらに、母子分離実験を進める中で、視床下部に新たな神経領域を発見するという幸運に恵まれ、教室の堀井講師を中心に、この領域が新奇物体探索やリスクアセスメント様行動に関与し、強迫性障害様行動に関連する可能性などを示すことができました。

研究は常に成果が上がり、ルンルンランランの楽しいばかりのものではありません。山あり谷ありの連続ですが、学会での発表、論文のアクセプト、研究費が採択された時、そして何よりも日々の実験の中でささやかな発見があった時の喜びや高揚感が、研究への意欲を支えてくれます。高校卒業以来随分回り道をしましたが、医学研究と教育に勤しみここまで何とかやってくることができたのは、とにもかくにも周りの先輩、諸先生方、同僚、後輩、大学の事務の皆様、教室員、家族など多くの方の協力と理解の賜物であり、心より感謝申し上げます。

奈良医大は大和三山に囲まれた静かな歴史の地に位置しますが、臨床も研究も世界とつながり日々動いています。若い研究者や学生、院生の皆様にはぜひ広い視野と様々なつながりを大事にしつつ、アクティブにそしてアカデミックにそれぞれの生活を充実させていっていただきたいと思います。

明暗の境 (はざま)



生化学 教授 高沢 伸

卒後研修義務化前で、卒後どこかの医局に所属する時代に、何処へ行ったら良いのか？決められずに講義室の後ろでモリエールの戯曲「いやいやながら医者になれ」を読んでいたこと、同級生に『この時期に?!』と指摘されたこと、更にそのシーズンも30回蔵王のゲレンデを滑っていたことを思い出します。

「少しは研究もしてみたい」という気持ちがあったからか「学位は取りなさい。研究するなら顕微鏡を覗くか試験管を振るしかない。顕微鏡の本場は解剖学、試験管振るなら生化学。」と学位取得を薦めてくれた先生があり、両目で顕微鏡が覗けなかったので、生化学で学位を取ることにしました。病気と関わりのある、実験の合間にスキーに行けそうなところ、ということで富山医科薬科大学の岡本 宏先生の教室(生化学・分子生物学)で勉強することになりました。研究材料のランゲルハンス島を実体顕微鏡下で1個1個拾い集める必要があり、顕微鏡を覗く必要に迫られ、研究開始3日目に突然両目で覗いた世界への扉が開けました。また分子生物学は実験の合間が短く、全くスキーに行けないまま岡本先生の東北大への転任に従って東北大に転入学、助手のポストが空いたので中退して助手に(先輩と同級生に先に声が掛かり、2人が断ったので…)、この時点で学位を取ったら臨床医になるという当初の予定から別の道に…。

岡本先生は「Okamoto model」として有名な β 細胞の死とその防止の研究で有名な生化学者です。ストレプトゾトシンなどの β 細胞を傷害する化合物でDNAが傷害され、そのDNAを修復しようとして核内のpoly (ADP-ribose) polymerase (PARP)が活性化し、この反応の基質であるNADが枯渇し、インスリン産生などの細胞機能低下が起こり、細胞死(necrosis)に。PRARの活性化をニコチン酸アミドのようなPARP阻害剤で阻止すると、 β 細胞の死を防止できるというものです。少量のストレプトゾトシンでは β 細胞は死なないが、インスリン分泌が傷害される点は従来

の「Okamoto model」では説明が出来ませんでした。Cell Regulationという雑誌に、アメフラシの卵精巢にNADからCa²⁺動員活性のある物質(cyclic-ADP ribose [cADPR])を作る酵素を見つけたという論文があり、ひょっとすると「少量のストレプトゾトシンでは β 細胞は死なないが、インスリン分泌が傷害される」のはこのことと関係があるのでは?と考えると、関連文献とともに岡本先生にこんな可能性はありませんか?と話すと、「やってみなさい」ということで、一連の研究が始まりました。その後、アメフラシを採りに青森市浅虫の臨界実験施設に行ったり、多くの先生の助けを頂いてcADPRがインスリン分泌のセカンドメッセンジャーとして機能すること、哺乳動物でcADPRを作る酵素がCD38であることを明らかにし、CD38-cADPR情報伝達系が新しい細胞情報伝達系であることが明確になりました。

2007年に奈良医大に着任すると第2内科の太田先生が大学院生としてやって来ました。睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome; SAS)の分子生物学的研究がしたいというので、それでは β 細胞の機能と増殖を、ということで始めたのが、その後現在まで続くSASとその合併症の分子生物学的研究です。この研究はその後、多くの共同研究者・大学院生が関わりインスリン抵抗性に関わるアディポカイン、ヘパトカイン、ミオカインの研究や、高血圧と関係のあるレニン、カテコールアミン合成酵素の研究、更に血管内皮細胞や血管平滑筋細胞の研究など多方面に発展することになりました。また、これら一連の研究からInt. J. Mol. Sci.誌から特集号の依頼を受け、3回にわたり「Sleep Apnea and Intermittent Hypoxia」特集のEditorを務めさせて頂いています。

表題の「明暗の境」は古武彌四郎先生の「人は明暗の境にいてはならぬ。明のみに立てば開拓の余地なく、暗のみにおれば五里霧中に彷徨する。」より、とらせて頂きました。五里霧中を彷徨することの多かった自らの研究生生活を反省するばかりです。

研究の勧め



総合医療学 教授 西尾 健治

退官するにあたり、von Willebrand 因子 (VWF) に関する研究について振り返りたいと思います。私は 1982 年に自治医科大学を卒業し、県立奈良病院で 2 年間の全科ローテーションのあと、天川村の診療所で診療所長として 2 年間勤務し、1986 年より医大小児科で働きだしました。そしてほどなく、小児科で管理している数百の von Willebrand 病 (VWD) 患者検体のマルチマー分析を行うという仕事が回ってきました。ですから、臨床にずっとつかりながら急に研究というものに触れ始めたわけです。今から思うと知識が深くないとその先の真実に興味を持てるはずもなく、内容よりもただ実験をするという事に興味をもって始めました。VWD というのは VWF の働きが足りなくて出血症状をきたす疾患です。VWF は巨大分子で、血管が傷害された時に血管内皮下組織に粘着し、血小板を血管内皮下組織に粘着させて血小板血栓 (一次血栓) を作って止血の最初の過程をつかさどっています。特に動脈のような血流が早い血管壁の止血には無くてはならない存在です。そのマルチマー分析というのは成功率が低くお鉢が回ってききましたが、ひたすらやり続け、教授の教育講演に使っていただき、ありがとうという言葉をいただいたのがうれしかった記憶が今も残っています。

その後、前輸血部教授の藤村先生に指導していただき、各 VWD 患者の Botrocetin 惹起血小板凝集能を測定して学位をいただきましたが、このあたりから多機能な VWF の魅力に少しずつ惹かれました。1993 年頃より救急科で働いていましたが、VWF に関連しては、心筋梗塞や不安定狭心症患者では正常の 2 - 3 倍以上に血中 VWF が上昇していることや、不安定狭心症患者の冠静脈洞の血液は冠動脈狭窄を通過してきたためか、VWF 依存性のずり応力血小板凝集能が亢進していることを見いだしたりしていました。つまり止血血栓形成に必要な VWF が病的血栓形成に関与している可能性を肌で感じていました。

2000 年頃には 3 年程、VWF の世界的な大家である Sadler 先生のおられるワシントン大学に留学し、VWF の血小板膜状蛋白 GPI b との結合部位である VWF の A1 ドメイン上のアミノ酸を、最も小さなアミノ酸であるアラニンに置換した変異 A1 ドメインを約 30 種程度作成して、新たに開発

した binding assay で GPI b との解離定数を測定し、さらに flow 下での血小板との結合も観察することにより、A1 ドメインのどのあたりのアミノ酸が最も両者の結合に重要なかなどを明らかにしたりしていました。その先には両者の結合に重要な A1 ドメインに似た適当な小さなペプチドを作成して血小板血栓形成を抑制する、つまり新たな抗血小板薬作成がありました。

またその頃 Sadler 先生のラボで VWF を切断する ADAMTS13 の 1 次構造が明らかにされましたが、この分子の VWF への働き方には非常に興味を持ちました。ずり応力が VWF に働くと VWF の血小板捕捉機能が亢進するのですが、実は、ADAMTS13 による切断も亢進してしまうものですから、ずり応力下で VWF がどんどん ADAMTS13 に切断されていっては血小板を VWF がどんどん捕捉することは出来なくなるので、A1 ドメインに血小板 GPI b が結合すると ADAMTS13 によって切られにくく、なるのでは? と考えました。しかしながら実際には、A1 ドメインに血小板が結合すると隣の A2 ドメインは ADAMTS13 により切られやすくなっていました。当初予定していた結果と異なったものですから、この現象はかなりショックで、これからどうしよう? と悩みました。しかし、このことにより A1 ドメインが ADAMTS13 切断部位を隠しており、VWF の A1 ドメインに血小板がついてこそ、A2 ドメインの ADAMTS13 切断部位が表出するとの考えに結び付けることが出来ました。この過程を実験にて明らかにしていくことは非常に面白かったです。またこの結果より、VWF に加わるずり応力の方向や大きさなどの差が、VWF の血小板捕捉能や ADAMTS13 による VWF 切断に影響を与えているのでは? と考えて、その後の研究、ADAMTS13 が止血血栓の内腔進展を抑制しているという発見につながりました。自分で仮説を考え、その仮説が崩れ、また違う仮説を立ててと、試行錯誤を繰り返す実験は非常に楽しいものでした。その後は ADAMTS13 が脳梗塞、心筋梗塞、肝臓や腎臓移植などの傷害抑制に働くことなどを明らかにしてきましたが、若い方々にも仮説の検証を是非楽しんでいただきたいと思います。研究は臨床においても演繹的な考えを育成するのに非常に役立ちますから。

1. 「奈良医大発ベンチャー起業の勧め」の発信から1年半の成果

(1) 2021年1月の仕事始め式において、細井理事長からアントレプレナーシップの重要性が説かれ、奈良医大発ベンチャー起業へのチャレンジが発信されました。それから1年半が経過して、5社が起業し、奈良医大発ベンチャーは合計6社になりました。

奈良医大発ベンチャー企業の起業推移

No	起業日	社名	創業時代表者
1	2018.10.01	MBTリンク株式会社	梅田智広 (MBT 研究所研究教授)
2	2021.07.01	MBT 微生物研究所株式会社	矢野寿一 (微生物感染症学講座教授)
3	2021.10.08	MBT 感染対策支援コンサルティング株式会社	笠原 敬 (感染症センター病院教授)
4	2022.01.04	株式会社 MBT 保健医療衛生研究開発機構	今村知明 (公衆衛生学講座教授)
5	2022.06.21	モルミル株式会社	森英一朗 (未来基礎医学准教授)
6	2022.10.17	株式会社 MBT ジョブレオーネ	岡山弘美 (人事課障害者雇用推進係)

MBT 研究所では創業代表者に、起業して良かった点、課題などをヒアリングしました。結果として、①これまでの無報酬の取り組みが有償化でき内容が充実、②活動の幅が拡大、③新たな挑戦ができるなど好印象であることが確認されました。

起業して良かった点	課題、期待外れなど	今後の起業にアドバイス
1. これまでボランティアでしか対応できず、断ることも多かった案件が、企業化して有償でも受けてくれることになり、結果として協力者に報酬を支払うことができ事業の拡大につながった。 2. 研究範囲の拡大や、これまであきらめていた新たな挑戦ができるようになった。 3. 企業との付き合い幅が拡大し、社会の見聞が広がった。 4. 研究者としての自由度が高まった。	特に無し	ベンチャー設立後には、企業運営に伴う税務や労務関係の事務作業が発生することを認識して、その対応策も起業時に検討しておくこと

(2) モルミル株式会社は、ベンチャーキャピタルであるリアルテックホールディングス株式会社他1社より、第三者割当増資による資金調達を行ったと11月にプレスリリースを行いました。奈良医大発ベンチャーでベンチャーキャピタルから資金調達を行ったのはこれが初めてで、ファンドマネージャーの厳しい目から見ても魅力的な事業に映ったと評価できます。

また、株式会社 MBT ジョブレオーネは、人事課の岡山弘美氏が奈良医大の業務で培った障害者雇用に関わる種々取り組みやノウハウを活かして、企業や各種組織の障害者雇用について、コンサルテーションや助言、実地指導、講演など行うこととしております。職員が創業者である大学発ベンチャーは全国でも珍しく、職員に勇気を与えるものとなっております。



奈良医大発ベンチャー認定書を持つ岡山弘美代表取締役

2. MBTの出席

2022年秋は、MBT 関連の出席が相次ぎました。主な出席を紹介いたします。

(1) MBT うめきた映画劇場

10月1日、奈良医大と MBT コンソーシアムが主催し、読売新聞社の協力の下で、うめきた2期開発区域に隣接する屋外の芝生広場「うめきた外庭 SQUARE」で「MBT うめきた映画劇場」を開催しました。このイベントは1月に開催した難病克服支援のための「MBT 映画祭 2021」の受賞作品の上映会となります。会場には、100人を超える観覧者が参加し、いのちの大切さを一緒に考えるひと時となりました。



高層ビルの夜景を背景にした会場

(2) 奈良県防災訓練

10月23日、橿原市の橿原運動公園で2022年度奈良県防災訓練が行われました。MBT コンソーシアム通信部会と奈良医大は奈良先端科学技術大学院大学の協力を得て、無線中継装置、WiFi 基地局を搭載したドローン等により、インターネット接続可能な衛星通信回線の利用範囲を広げるシステムに関するデモを実施しました。来場者には、災害発生現場の通信遮断時に提供される無線サービス「00000JAPAN」を擬似的に提供し、お手持ちのスマホで衛星回線を体験してもらいました。



荒井知事、村井副知事の視察

(3) HANAZONO EXPO

11月5日、6日、花園中央公園で「HANAZONO EXPO 2022 ~いのち輝く未来社会にふれてみよう Road to 大阪・関西万博～」が開催されました。2日間で7万人の人出となった本イベントに、奈良医大と MBT コンソーシアムが連携して、梅田智広研究教授が進める「未来の健康技術体験デモ」等の出席で参加しました。



東大阪市の皆さんにMBTを紹介

先端医学研究支援機構だより

医学研究支援センターからのお知らせ

1 組換え DNA 実験安全委員会講演会を開催しました

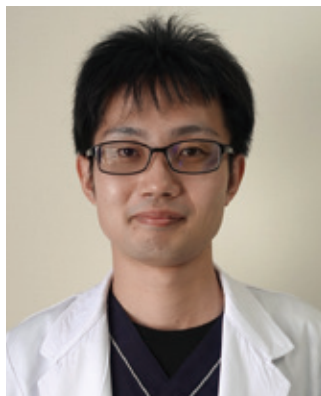
沖縄科学技術大学院大学 (OIST) 田中俊憲先生に「遺伝子組換え実験の安全～ OIST の事例紹介」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や方法、常に安全な組換え実験の実施を意識する大切さについて、11月25日に本学の実験者に対してご講演をいただきました。



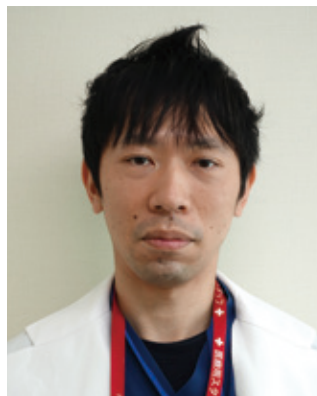
沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
田中俊憲先生

研究力向上支援センターからのお知らせ

1 若きトップサイエンティストの挑戦 (リサーチストーリー) vol.8 および vol.9 を掲載しています (本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティスト



Vol.8:
腎臓内科学 医員 西本雅俊先生



Vol.9:
血栓止血先端医学 助教 中島由翔先生

このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。

Vol.8では、腎臓内科学 医員 西本雅俊先生の論文「External Validation of a Prediction Model for Acute Kidney Injury Following Noncardiac Surgery」(非心臓手術後の急性腎障害予測モデルの外部検証)【JAMA Network Open】についてインタビューさせていただきました。JAMA Network Openは世界で最も広く読まれている医学雑誌の1つ The Journal of the American Medical Association (略称、JAMA) の姉妹誌です。

Vol.9では、血栓止血先端医学 助教 中島由翔先生の論文「Factor VIII mutated with Lys1813Ala within the factor IXa-binding region enhances intrinsic coagulation potential」(血液凝固第VIII因子の中にある第IXa因子との結合領域内の1813番目リジンにアラニン変異が入ることで内在性凝固能が上昇する)【blood advances】についてお話を伺いました。blood advancesはアメリカ血液学会が発刊する blood の姉妹誌です。

西本先生、中島先生、お二人の論文の概要、研究を進めてこられた動機、プロセスをお伺いするとともに、研究を進めていった過程での苦労されたこと、今後の抱負などをインタビューさせていただきました。

これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。

記事ホームページはこちらの二次元バーコードからご覧いただけます。

若きトップサイエンティストの挑戦 (リサーチストーリー)

URL: <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/crcd/interviewwakakitopbox.html>



アグリゲーター系データベース ProQuest を使いこなそう！

アグリゲーターとは、複数の出版社が発行する電子コンテンツをまとめて収録したデータベースです。ProQuestのほか、CINAHLやメディカルオンラインもアグリゲーターであり、多くの電子コンテンツを収録しています（ProQuest1,990誌、CINAHL1,400誌、メディカルオンライン1,514誌）。その中でもProQuestはNature、NEJM、Lancet、BMJといった有名ジャーナルをたくさん収録していますが、PubMedからProQuestの収録ジャーナルを見るにはちょっとしたコツが必要です。今回は知らないともったいないProQuestの見方を解説します。

【ProQuestのジャーナルをPubMedで見るとき】

PubMedの検索結果には、購読の有無に関わらず電子ジャーナルにリンクが貼られています。本学で契約しているものや無料公開されているものはリンクをクリックすれば本文をご覧ください。ただ、ProQuestのようなアグリゲーターはリンクが出てきません。これから具体例で説明します。

(例) Natureの1992年の論文 (PMID:1465142) をPubMedから見る。

- ①PubMedを見る前に、電子ジャーナルリストから利用可能期間を確認してみます。本学で契約しているNatureの出版社リンクでは1997年から最新のものまで利用可能です（上から3番目）。一方ProQuestなどアグリゲーターでは最新のものは見られませんが、1990年から一年前のものまで利用可能です（上から1、2番目）。最新のものを利用できるまでの期間をエンバゴと言います。ジャーナルによってエンバゴは異なり、Natureの場合は1年のエンバゴです。今回例に挙げた1992年の論文は出版社リンクからではなくProQuestで見られることがわかります。

<p>Nature [0028-0836]</p> <p>利用可能期間： 1990/01/04年 to present 最近 1年利用不可 in Biological Science Collection</p> <p>利用可能期間： 1990/01/04年 to present 最近 1年利用不可 in Health and Medical Collection</p> <p>利用可能期間： 1997年 to present in Nature</p>
--

- ②PubMedでNature1992年の論文を検索すると、Full Text Linksに二つのリンクが出てきます。上のリンクはNatureの出版社リンク、下は奈良医大Find Full Textリンク（以下、奈良医大リンク。奈良医大で利用できるフルテキストの有無や冊子体の所蔵を探すリンク。**※奈良医大で見られるリンクではない。**）です。

<p>> Nature. 1992 Dec;360(6406):732-5. doi: 10.1038/360732a0.</p> <p>The earliest Acheulean from Konso-Gardula</p> <p>B Asfaw¹, Y Beyene, G Suwa, R C Walter, T D White, G WoldeGabriel, T Yemane</p> <p>Affiliations + expand</p> <p>PMID: 1465142 DOI: 10.1038/360732a0</p>	<p>FULL TEXT LINKS</p> <p> nature publishing group</p> <p> 奈良医大 Find Full Text</p>
--	--

- ③Natureの出版社リンクをクリックすると、利用不可と出てきます。①で確認したとおりです。

<p></p>	<p>Access to this article via Nara Medical University is not available.</p> <p>Change institution</p> <p>Buy or subscribe</p>
---------	---

- ④下の奈良医大リンクをクリックします。ProQuestへのリンクが出てきます。リンク名がProQuestではなくProQuestのコレクション名のためわかりにくいですが、出てきたフルテキストリンクをクリックすればOKです。ProQuestでは、Health & Medical Collection、Biological Science Collection、Psychology Database、Publicly Available Content Databaseの4つのコレクションが利用できます。

- ⑤フルテキストを見る「Go」をクリックするとProQuestの本文PDFが開きます。

ちなみに、②④の奈良医大リンクはPubMedの奈良医大専用入口から入らないと出てきません。

【PubMed奈良医大専用入口への入り方】

奈良医大図書館のホームページから入ります。奈良医大ホーム > 文献検索 > PubMed【奈良医大専用入口】<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/?otool=ijpnarmlib>
 ※GoogleなどからPubMedに直接入ると学内ネットワーク内のアクセスでも奈良医大リンクは出てきません。

PubMedからProQuestのジャーナルを見る時のポイントを3つにまとめました。

- PubMedの奈良医大専用入口から入らないと奈良医大リンクは表示されない
- ProQuestリンクはPubMedのFULL TEXT LINKSに出てこない
- ProQuestリンクは奈良医大リンクから見ると出てくる

なお、PubMedを經由せずにProQuestを直接検索し、ジャーナルをご覧ください（学内限定）。

また、ProQuest Ebook Centralでは、Elsevier、Springer、Taylor & Francisといった大手出版社など12,000点余りの医学関連電子ブックが利用できます（登録すれば学外から利用やダウンロード可）。

図書館ホーム > オンラインリソース > 出版社サイト > ProQuest

<p>ProQuest【プロクエスト】(外部サイトへリンク)</p> <p>※アクセスは学内限定</p> <p>約2000誌の雑誌の全文が利用できます。Health and Medical Complete、Biology DatabaseおよびPsychology Databaseの3パッケージが利用できます。</p> <p>ProQuest【プロクエスト】Ebook Central (外部サイトへリンク)</p>
--

医学分野のコンテンツを幅広くカバーするデータベースProQuest、ぜひご利用ください。

働き方改革だより

◎令和6年度～医師労働時間短縮計画を策定しました

令和6年4月から、医師の時間外労働上限規制の適用が開始されます。
規制に向け本学では、特例水準指定のうち、B水準とC-1水準を申請予定です。
その際に提出する「医師労働時間短縮計画」を策定しました。うち主なものをご紹介します。

※B水準…時間外労働が年1860時間以下、連続勤務時間制限が28時間

C-1水準…時間外労働が年1860時間以下、連続勤務時間制限が24時間、臨床研修医が対象

労働時間と組織管理

【計画期間】令和6年(2024年)4月～令和11年(2029年)3月末

(1) 労働時間数

年間の時間外・休日労働時間数	令和4年度実績	令和6年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	917時間	890時間	788時間
最長	2,568時間	1,860時間	1,647時間
960時間超～1,860時間の人数・割合	250人(38%)	230人(35%)	190人(29%)
1,860時間超の人数・割合	44人(7%)	0人(0%)	0人(0%)

令和4年度実績では、時間外労働が1860時間超の人が44人ですが、この人数を、令和6年度中には必ず0人にする必要があります。

令和18年3月末には年間時間外労働が960時間超の人も0人にしないとけません。

(2) 労務管理・健康管理

【宿日直許可の有無を踏まえた時間管理】

令和6年度の取組目標	夜間(17:15～翌8:30)及び土日祝の日直帯(8:30～17:15)において、勤務が常態化している診療科について、下記取組の実施を検討 ○宿日直から勤務へ切替 ○タスクシフト等業務の削減、勤務シフトの見直し等による宿日直体制の継続
------------	---

- 夜間勤務への切替試行開始
→産婦人科、循環器内科
- 宿直時間を短縮しての宿日直許可申請を検討
→小児科、呼吸器内科
(令和5年1月現在)

夜間勤務への切替試行をしている診療科では、翌朝に帰宅できる点が良い等の意見をいただいています。



夜間休日の勤務実態に応じて夜勤化や宿日直の見直しについてご検討ください。
目標達成には職員の意欲と協力が必須です。御理解をお願いします。

国際交流センターだより vol.10

「第4回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」を開催しました

12月21日、本学の学術交流協定校である、オックスフォード大学生理学・解剖学・遺伝学部門の名誉教授、John Morris 先生をお招きし、ご講演をいただきました。Morris 先生は過去にも2度、本学を訪問されており、今回は「Reflections of an anatomist on a life studying neuroendocrinology」と題して、医学科2年生対象の講演となりました。

オックスフォード大学 生理学・解剖学・遺伝学部門
名誉教授 John Morris (ジョン・モリス)

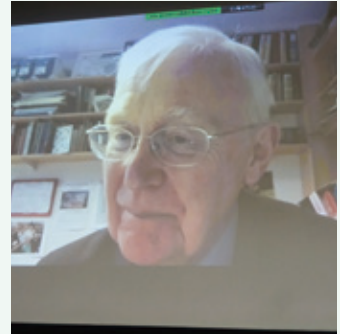
To Medical and Nursing students of Nara Medical University

Dear Nara Students,

One of the great pleasures of my academic life has been my contacts with medical researchers in Japan, including Professor Nishi. I have been fortunate to visit Nara Medical University on two occasions when I enjoyed discussing medicine and research with researchers and students and seeing this ancient capital of Japan. I bring you best wishes from the medical and science students of Oxford and hope that, in future, you will have the chance to visit Oxford.

I have spent most of my career teaching anatomy, endocrinology, and studying neuroendocrine neurons. We now know that these neurons have important effects in the nervous system in addition to those exerted via the circulation, but there is still much to discover about these effects. Perhaps some of you will, in future, be part of that discovery.

Every good wish,
John Morris



奈良県立医科大学 第一解剖学 西 真弓

奈良医大とオックスフォード大学生理学・解剖学・遺伝学部門は、2008年に学術交流協定を結んで以来、これまで数回の交流を行っています。同大 John Morris 先生には2012年と2013年に訪日し特別講演(対面)を行っていただいたほか、人体解剖学実習にも一度だけ現地参加の上、学生に対し直接指導をしていただきました。今回はZoomでのご講演になりましたが、「Reflections of an anatomist on a life studying neuroendocrinology」の演題で先生の長年にわたる神経内分泌学研究について美しい電子顕微鏡写真などをふんだんに用い、大変魅力的なお話をお聞かせいただきました。今はコロナ禍で海外へ行く機会が減っていますが、学生さんたちには将来的には是非とも海外で研鑽を積み、国際的に活躍する医師、医学研究者になってほしいと思います。



学生の声

医学科2年 小泉 悠翔

モリス先生の講演を通じて、様々な国の方と協力して学びを深めることの重要さと面白さを実感しました。広く世界を見渡してみると自分の学んでいることを別の視点から学んでいる人と出会うことができ、研究においても臨床においても視野が広がると思います。

日本人にとって英語を学ぶことは言語間距離が遠いことから難しい側面もあるので、こうした機会にネイティブの先生が直接講演して下さるのは貴重な機会だと感じました。



未来への飛躍基金だより

未来への飛躍基金へのご理解とご協力を頂き誠に有難うございます。皆様からのご寄附は、教育・研究及び診療活動、大学及び附属病院の施設設備への支援等、幅広く活用しております。教育・研究への支援から活動報告の一部をご紹介します。

教育・研究への支援 ～リサーチ・クラークシップ～ (2021年度活動報告より)

リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究機関にて研究に参加することで、研究マインドを育てることを目的としています。基金では、実習にかかる宿泊費の一部を助成しています。

旭川医科大学 先進医工学研究センターへ研究実習留学をしました

(当時) 医学科2年生 山名 智尋

前列右が山名さん

この度は北海道への渡航費とリサーチ・クラークシップ期間の宿泊費のご支援をいただき、ありがとうございました。旭川という奈良から遠く離れた地で、2か月間という長期間の実習を無事行うことができましたのは、未来への飛躍基金からのご支援のおかげです。

リサーチ・クラークシップでは、先進医工学研究センターの先生方と一緒に研究活動を行うことで、現状の課題を解決するために新たな知を求めたり、まだ誰も知らないものを生み出したりすることの面白さとやりがいを感じることができました。私はずっと臨床の現場で働く医師になりたいと思いつけてきたのですが、リサーチ・クラークシップを通して研究に対する興味がとても強くなり、将来の選択肢の一つに研究者というものが加わりました。現時点では、奈良医大卒業後まず臨床医として医療に携わり、臨床の現場で見つけた課題を解決するために研究を行い、最終的に研究の成果を患者さんに還元できるように医師というものが目標とする将来像のひとつです。先進医工学研究センターでの経験がなければ、将来の選択肢に研究が加わることはなかったかと思います。旭川での実習の機会を与えてくださった未来への飛躍基金にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を糧にこの先も努力を続ける所存です。本当にありがとうございました。



金沢大学 血管分子生物学教室へ研究実習留学をしました

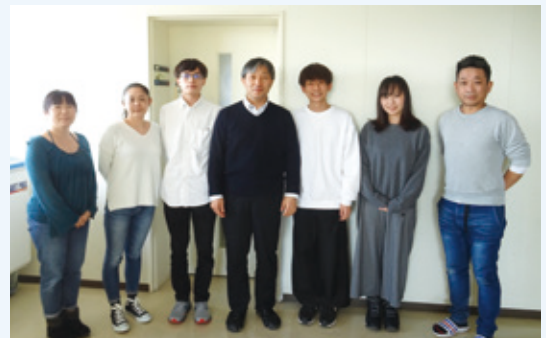
(当時) 医学科2年生 朝井 啓斗

左から3人目が朝井さん

リサーチ・クラークシップを通して大きく2つのことを学びました。一つはもちろん研究のことです。高血糖ではAGEsの産生が亢進し様々な疾患に関係することは臨床で働く上で重要な知識だと思いました。また今回私が実験を行ったMG検出法についても、糖化反応の中間生成物の一つであるMGの検出法が確立され病態解明や早期診断、予防・治療薬の開発に繋がると考えられ、それに私が関わられたなら嬉しいことだと思います。授業で教わることは確立された事実のように見えますが、その裏に未だ明らかになっていないことがたくさんあることを知りました。今後そのことを頭に入れながら注意深く授業を受けようと思います。

もう一つは自分の性格に関することです。例えば帰宅時間について、実験の条件次第で終了時刻が異なり遅くまで残ることもあります。また発表の準備に関しても求める質によってどのくらい自分の時間を削るか変わってきます。研究、そして仕事に対する姿勢を改めて認識することができ、卒業後のキャリアパスを考える上でとても参考になる経験になりました。

以上のことを学べたのは、約2か月金沢で研究に集中できる環境にあったからだと思います。関西にいれば家族や同級生のことだったり、部活のことだったり他の用事で忙しかったと思います。金沢で研究に集中し、自分のことについてじっくり考え、そして多くのことを学べたのは未来への飛躍基金の支援があったからです。このような機会を与えてくださりとても感謝しております。医学・医療に貢献し支援してくださった皆様にお返しができるよう頑張りたいと思います。



【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索！



「医学物理士」を知っていますか？

みなさんは医学物理士という資格を知っていますか。医学物理士は、医学物理士認定機構のホームページ¹⁾上では、「放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う者で、医学物理士認定機構が実施する医学物理士認定試験および認定審査に合格した者」と紹介されています。2023年1月現在、日本国内では国家資格化はされていませんが、国際労働機関(ILO)の国際標準職業分類ISCO-08における「物理学に関連する科学的知識を医療の分野に応用する職業」Medical Physicistに相当し²⁾、国際的には医療の分野の標準的な職業とされています。医学物理士の業務には、①医療、②研究開発、③教育があり、以下の4分野、すなわち、放射線治療物理学分野、放射線診断物理学分野、核医学物理学分野、放射線防護・安全管理学分野で健康に寄与しています。医学物理士認定試験受験資格、認定審査資格を得るためには、現在は大学院での医学物理教育プログラムを修了し、一定期間の臨床研修を受ける必要があります³⁾。医学物理士の認定は1987年の日本医学放射線学会の医学物理学者認定制度から始まっています。2022年12月現在まで延べ1623名が資格を取得し、現在の登録者は1427名となっています。2000年代の前半に、日本国内の比較的規模の大きな病院で、放射線治療の誤照射事例が多数報告された経緯より、日本国内では、主に放射線治療部門に配属されることが多くなっています。

奈良県立医科大学では、高精度の外部放射線治療および小線源治療を積極的に実施しています。放射線治療機器の精度管理および放射線治療の品質保証が特に重要であることより、放射線治療部門に対して医学物理士の積極的な配置を行ってきました。現在、院内には8名の医学物理士が勤務しており、そのうち6名が放射線治療の業務に関わっています。医学物理士が関与している業務で重要なポイントは、日本の放射線治療施設では放射線治療計画がいまだに医師中心で行われている中で、難易度の高い強度変調放射線治療(IMRT)の放射線治療計画の実施を、医師から医学物理士にタスクシフトが可能な状況になっていることです。

放射線腫瘍医学／医療情報部 部長 玉本 哲郎

それにとまって、当院のすべての放射線腫瘍医が、担当した患者さんに対して積極的に強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT)が行える体制になっています。放射線治療症例の60-80%が高精度放射線治療を行っている状況は、他の大学附属病院の状況をみても特筆すべきことです。

今後は、医学物理士資格の取得者をさらに増加させ、放射線治療部門以外にも配属させることにより、放射線診療全体の質保証に寄与できればと考えています。

参考文献

- 1) 医学物理士とは - 一般財団法人医学物理士認定機構 <https://www.jbmp.org/it/>
- 2) 国際標準職業分類ISCO-08 http://www.ilo.org/global/publications/ilo-bookstore/order-online/books/WCMS_172572/lang-en/index.
- 3) 医学物理士認定制度規程 <https://www.jbmp.org/wp-content/uploads/ninteikitei2014.pdf>

医学物理士の業務

1) 放射線治療物理学分野

エックス線や粒子線を利用してがんを治療する放射線治療における装置開発、物理的品質管理などを通して副作用を抑え、がんを効果的に制御します。主として放射線治療計画の最適化と検証などを行っています。

2) 放射線診断物理学分野

病気の診断をするための画像診断装置の開発、画質向上、被ばく線量と画質の管理などを行います。

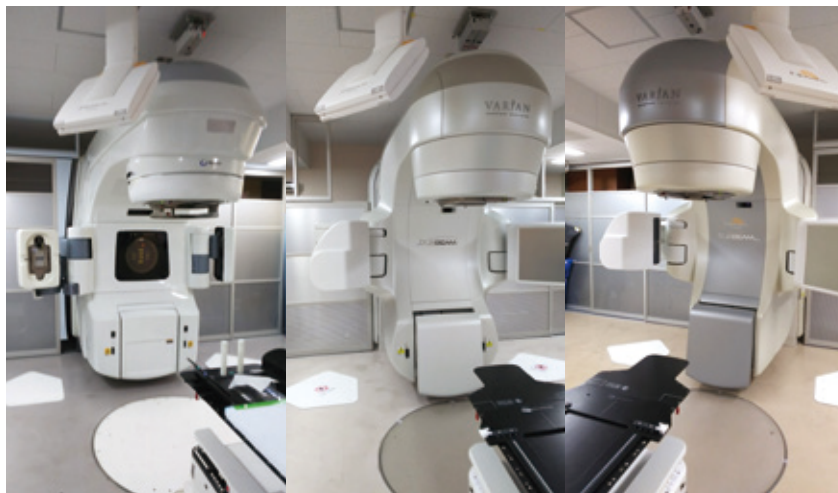
3) 核医学物理学分野

放射線同位元素を使って病気の診断や治療をするための装置の開発、画質向上、被ばく線量と画質の管理などを行います。

4) 放射線防護・安全管理学分野

放射線の害を最小限に抑えます。

当院の高精度放射線治療装置と活躍する医学物理士たち



7.30

故島本郁子氏が 藍綬褒章を受けました

故島本郁子氏（元看護短期大学部教授、元産婦人科学助教授、令和4年6月9日逝去、享年87歳）が、7月30日付で藍綬褒章の遺族追賞を受けました。

島本郁子氏は、本学産婦人科の臨床現場において、女性の犯罪被害者への早期対応とケアの必要性を痛感し、現場の警官と連携の基盤をつくり、平成9年より奈良県警察被害者支援アドバイザーを委嘱され、医師と警察との組織的な支援の協力体制構築に寄与しました。本学退官後も、なら犯罪被害者支援センター副理事として、被害者のケアと支援への理解啓発に尽力し、現在の奈良における犯罪被害者支援のシステム構築を牽引してきました。



細井理事長とご遺族の島本太香子氏（産婦人科学診療助教）、島本卓也氏

9.27

大和平野中央田園都市構想推進の ための事業募集にて採択されました

現在、大和平野中央部において、若者や女性の働く場の創出、県民の健康増進、暮らしやすさ向上を目指す「大和平野中央田園都市構想」が動き出しています。その推進・活性化を図るため、奈良県磯城郡3町内で新たな技術等を活用して住みやすいウェルビーイングなまちづくりの実現に繋がる先進的な取組を行う事業の募集が行われ、本学の提案した「センシング技術を活用した、健康増進・高齢者見守りを叶えるウェルネスタウンの形成」が採択されました。

今後は、県からの支援を受け、梅田副所長を中心にライフスタイルセンシング・ヘルスケアセンシングやデジタルマネーを組み合わせた福祉システムのデジタル化に関する実証実験に取り組んでいきます。



実験内容を尋ねる細井理事長

10.3

奈良先端大との連携活性化委員会 を開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学とは連携協定に基づき、連携活性化の取り組みを進めています。

今回、連携活性化委員会をWEB会議形式で開催し、今年度奈良先端大で行われた出張講義や先端大の教員を迎えて新たに始まった本学での講義の報告、次回の共同研究助成事業の報告会について論議を行いました。

また、現在検討中の両大学共同の連携活性化推進室についての議論もありました。

今後も、さらに両大学の交流が一層進むような連携を図ります。



連携活性化委員会の様子

10.17

株式会社MBT ジョブレオーネを奈良 医大発ベンチャー企業に認定しました

人事障害者雇用推進係の岡山係長（障害者雇用推進マネージャー）が、本学6番目となる大学発ベンチャー企業を設立しました。

2022年10月17日に設立された株式会社MBT ジョブレオーネは、障害者雇用の体制作りや人材育成及び業務トレーニング等の指導のほか、障害者雇用促進に関する講演会の企画や商品企画、開発に関する支援事業などを行います。

岡山係長はこれまで学内の障害者雇用の体制作りや職場定着に携われ、本学は県下でも高い障害者雇用率を達成してきました。これらの実績を基に、ベンチャー企業では障害者と事業者の双方にとって有益で満足度の高い障害者雇用体制の定着と拡大を目的に助言やコンサルティングを行うことで、社会貢献を目指します。

本学では、アントレプレナーシップを身近なものにし、国の方針でもある大学発ベンチャーの起業を積極的に支援しています。志ある教職員の方は、ぜひ研究推進課、MBT 研究所までご相談ください。

（出資の相談や事業計画作成の支援などを行っています。）



岡山代表取締役

10.2 奈良県立医科大学健康フェア 2022 を開催しました

イオンモール橿原の1階サンシャインコートにて奈良県立医科大学健康フェア2022の「こどもの医療体験」を開催しました。コロナ禍の影響で3年ぶりの現地開催で、人数制限や感染対策などを徹底し開催させていただきました。10時～17時までの開催でしたが、約1200名の方々にご参加いただきました。

企画として、奈良県立医科大学医学科・看護学科の学生が中心に看護体験ブース、聴診・臓器エプロンブース、心臓マッサージ・AED体験ブース、ぬいぐるみ病院、クイズ大会、スタンプラリーなどを実施し、こどもたちに医療の体験をしていただきました。奈良県広域消防組合の皆さんには、ステージ企画として「タスケルンジャーショー」(心臓マッサージ・AEDの普及活動を目的としたパフォーマンス)で会場に集まった大勢の観客を盛り上げていただきました。また、救急車を搬入しての救急車体験ブースや火災予防啓発ブース、救急車との記念撮影なども実施いただきました。臓器移植啓発ブースでは、奈良県臓器バンクより「日本臓器移植ネットワーク」が作成する絵本リーフレットや子供向け小冊子、臓器移植教材シール、意思表示カードなどを配布いたしました。会場横の大スクリーンで、難病克服支援MBT映画祭の紹介や2021年の入賞作品、また、オンラインでの奈良健康フェアの動画などを繰り返し放映させていただきました。



ぬいぐるみ病院の説明をする学生



動画でわかりやすく解説

10.15 東京根津・千駄木下町まつりで 10.16 MBT サービスを出展しました

東京の下町エリアの一角である根津、古き良き街並みに人々の暮らしが息づいており、散策を楽しむビジターにも愛されている場所です。しかし、一步入れれば店主の高齢化や後継者問題によって街のにぎわいを生み出していた商店や食堂が店を閉じつつあります。

そこでMBTはコミュニティ・地元の方々の健康意識向上を目的に、「ねづくりや」を展開する都市テクノ社と連携、地域コミュニティの再生を目指し、根津を代表する千駄木町まつりにて様々なMBTサービスを出展しました。

地域の方々へMBT研究所 梅田副所長がトレーニングパチンコ(ペダルを漕いで玉を発射)や筋電ゲーム(筋肉の電流をスイッチとしたパソコンゲーム)を通して健康アドバイスを実施しました。

今後は、健康ステーションとしての計測で得られたデータの活用、個々や地域への還元などを進めていきます。



にぎわうMBT出展ブース

10.20 大和平野中央田園都市構想フォーラム でMBT実証実験を紹介しました

県では、大和平野中央地域の磯城郡3町(川西町、三宅町及び田原本町)を中心に、住みやすいウェルビーイングなまちづくりに取り組む大和平野中央田園都市構想を進めています。

今回、田原本青垣生涯学習センター弥生の里ホールで民間事業者や、県民に対し、構想の取組内容等を発信する「大和平野中央田園都市構想令和4年度第1回フォーラム」が開催されました。

本地域での“ウェルネスタウン実証実験”が事業採択され、10月より実験を開始したMBT研究所の梅田副所長からは、WEBによる実証実験の紹介を行いました。梅田副所長は、ICTを活用した健康見守りの取組みを進め地域住民の行動変容を起こしたいと意気込みを語りました。



大和平野中央田園都市構想フォーラム

10.15 10.16 令和4年度奈良県立医科大学 白檀生祭を開催しました

令和4年度 白檀生祭実行委員長
医学科4年 大村 侑也

今年度の白檀生祭では、昨年度確立された現地とオンラインのハイブリッドでの開催を基盤に、コロナ禍以前に実施していた外部店舗や部活動からの出店を再開できました。会場となった大学ロータリーでは多くの方々の笑顔が溢れており、コロナ禍における大学祭のモデルケースとして十分な成果を挙げられたと感じております。

運営に携わったこの1年は、普段は関わりの少なかった方々と非常に多く関わることができて、我々が学生として過ごしていく上でどれほど多くの人の助力をいただいているかを日々痛感すると同時に、奈良医大生の一員であることを非常に誇らしく感じました。この白檀生祭を通じて得た経験、築き上げた人間関係はこれからの人生でかけがえのないものとなることを確信していますし、医師になったその先でも大切にしていきたいと思っております。

今年度の奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、ご協力いただきました近隣の皆様方、ご多忙の中白檀生祭にご協賛くださった病院・企業・店舗各位、様々な形でご協力くださった教室、ご指導ご鞭撻くださった先生方・同窓会・かつて実行委員を務められていた先輩方に、この場をお借りして、白檀生祭実行委員一同より深く御礼申し上げます。



令和4年度 白檀生祭実行委員会

10.22 奈良県主催の漢方シンポジウム 2022に参加しました

奈良県文化会館において奈良県主催の「漢方シンポジウム2022 漢方薬を知りたい～ゆかりの地 奈良から～」が開催されました。

本学からは、大和漢方医学薬学センターの三谷和男特任教授が講演を行いました。

「奈良県プロジェクトの目指す未来 臨床漢方の可能性」と題した講演で、奈良県と薬の歴史から始まり、現在の漢方医療の実情について講演されました。

その後の質疑応答では、漢方薬は産地によって効果の違いはあるのか?など、多くの質問があり盛況でした。



講演する三谷特任教授

10.23 奈良県防災総合訓練に MBTブースを出展しました

橿原運動公園で奈良県防災総合訓練が開催されました。本訓練は、新型コロナの影響で3年ぶりの開催となり、橿原市を震源とする震度7の地震が発生したという想定で、発災からライフライン復旧までの一連の流れについて、参加した80機関が連携して行われました。

また、県民への防災意識の高揚を図るため、防災啓発コーナーが設けられ、MBTからは「災害時に役立つ通信手段」などに関するデモ展示を行いました。このデモは、奈良先端科学技術大学院大学の協力を得て、無線中継装置・WiFi基地局を搭載したドローン等により、インターネット接続可能な衛星通信回線の利用範囲を広げるシステムに関するもので、荒井知事や村井副知事ら奈良県幹部らも立ち寄り、最新デジタル通信技術を知ることができて大いに勉強になったと評価をいただきました。



荒井知事の訪問

10.27 「HANAZONO EXPO」の 出展内容を検討しました

2025年の大阪・関西万博に向けた機運醸成のため、関西各地では万博関連イベントの検討・開催が行われています。MBT研究所でも、本学の研究活動の成果を一般の方にも体験していただき広く認知していただく機会として、万博関連イベントへの出展に積極的に取り組んでいます。

直近での出展となる11月5日～6日開催の『HANAZONO EXPO』では、軟骨伝導イヤホン体験や血管状態からの健康チェックに加え、リハビリ等への応用が期待できる足漕ぎ稼働のトレーニングパチンコや筋肉の電流で動くパソコンゲームなどの「運動×エンタメ」をテーマにした体験企画を実施することとなりました。

本学の研究成果をより多く社会へと還元できるよう、引き続きMBT展開構想に力を尽くします。



意見を求める細井理事長

10.28 技術士全国大会でMBT講演をしました

第48回技術士全国大会は「まほろばの国から未来社会へ！～技術の融合と新たなイノベーション～」のテーマで、奈良で開催されました。

医工連携特別講演会では、本学から細井理事長が「MBT：医学を基礎とするまちづくり～医学による産業創生、国と地方の活性化～」について、社会に貢献するMBTの発想の原点を事例も交えて紹介しました。

また、MBT研究所 梅田副所長は「MBT ×医工連携の未来～社会と産業はこう変わる～」の演題で、過去の具体取組事例から現在のデジタルヘルス分野の取組まで解説し、ニューノーマル時代に向けた医工連携体制の姿を提案されました。

参加者は、MBTの発想やこれまでの取組について関心が高く、今後に期待感を示されていました。これからもMBTの取組みについて積極的に展開を図り、MBT活動をPRしていきます。



MBTの取組みを紹介する細井理事長

11.2 医科学英語「代表学生エキシビジョンディベート&100人ジャッジ」

奈良県立医科大学 招聘教授 恩知 忠司

今年度、医学科2回生の「医科学英語」に「即興型英語ディベート」(Parliamentary English Debate)を導入しました。合計10回のディベート実践の集大成として、「代表学生エキシビジョンディベート&100人ジャッジ」を開催しました。

代表学生は、ディベート実践でベスト・ディベーターに複数回選ばれた学生を中心に選考しました。受講者116名中60名が一回以上ベスト・ディベーターに選ばれており、選考は大激戦でした。緊張感と期待感が漂う中、「反論がとてもうまい。相手のスピーチをよく聞いて論理的な反論ができていた。」など、推薦コメントとともに名前が読み上げられると教室の至る所で拍手が沸き起こりました。

代表学生 (敬称略)

肯定 (Government) チーム		否定 (Opposition) チーム	
宮下実羽	湊 俊介	泉田万由子	金井毅之
鈴木裕介	小泉悠翔	飯尾郁夢	近藤佑真
スーパーサブ 河村勇輝、佐々木陸、眞野翔、吉田彪晟			



講義の様子
116名が一堂に会するのは壮観です。

論題は、「From now on, with translation software, English proficiency is unnecessary to doctors.」(これからの時代、医師にとって、翻訳ソフトさえあれば英語力は不要である。)でした。15分の準備時間で、代表チームは総力を結集して立論に取り組み、ジャッジを務める代表以外の学生(「100人ジャッジ」)は、「中間審査」として、論題の肯定ポイントと否定ポイントを考える課題に取り組みました。

いよいよ開始です。肯定チームは、日本の医師が英語を使う場面が少ないこと、どうしても使わなければならないとしても翻訳ソフトで十分であること、ことよりも医師としての姿勢の方が重要であること、などを主張しました。否定チームは、コミュニケーションは自分のことばで伝えることこそ重要であること、論文を読み書きする時には英語力が必須であること、などについて述べました。進化しつつある翻訳ソフトの限界についても議論の応酬があり、白熱したディベートになりました。結果、「100人ジャッジ」の裁定は61対41、PDAジャッジも同意見で肯定チームの勝ちとなりました。面白い結果ですね。

代表学生の出来栄は期待通りでしたが、学生たちの「層の厚さ」を考えれば、あと4チームくらいは同様のディベートができるのではと感じています。「即興型英語ディベート」の「即興性」と「ハードワーク」が学生たちから驚異のパフォーマンスを引き出したと言えるでしょう。

なお、「即興型英語ディベート」の詳細は、PDA(一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会)のHP(<https://pdpda.org/>)や『コミュニケーション場のメカニズムデザイン』(慶應義塾大学出版会)を参照してください。



聴衆に向かって、アイコンタクトをしながら堂々としたすばらしいスピーチでした！

11.5 11.6 HANAZONO EXPOに MBTブースを出展しました

ウェルビーイングの実現と賑わいの創出及び2025年に開催される「大阪・関西万博」の機運醸成を目指して、東大阪市内の花園中央公園を実験実証フィールドに、「HANAZONOEXPO 2022～いのち輝く未来社会にふれてみよう Road to 大阪・関西万博～」が盛大に開催されました。

好天にも恵まれ、2日間で7万人の人出（主催者発表）となった本イベントに、奈良医大とMBTコンソーシアムが連携して、MBT研究所の梅田副所長が進める「未来の健康技術体験デモ」等の出展をしました。

親子連れの参加者も多く、出展したMBTブースには開会の10時を待ちきれずに多くの人が押し寄せ、長い待ち行列もでき、息つく暇もない盛況となりました。

また6日の午前には、細井理事長が多くの来場者が集まる会場のメインステージでMBTの展示内容を紹介し、展示ブースの集客に一役買われました。今回の出展参加は、MBT活動を大阪府下の皆様にもPRできる絶好の機会になりました。



メインステージでの細井理事長講演



MBTブースにて八尾市の皆様と

11.7 11.9 奈良県立高等技術専門校の訓練生に 構内の剪定作業を行っていただきました

奈良県立高等技術専門校の訓練生に実習の一環として学内の剪定作業を行っていただきました。

同専門校の造園技術科では、庭園設計、作庭技術、樹木の植栽や剪定技術等の基礎的知識と技能を習得し、関連業種に即戦力として就職が出来るよう技術を磨いています。

3日間、晴天にも恵まれ17人の訓練生が指導教員の指導のもと構内の剪定実習を受けました。

訓練生にとって本学での経験が、今後の技術の取得に生かせればと期待します。



剪定の様子

11.18 高度医療技術修得者の 認定証交付式について

本院では、平成22年6月から医療機器の多様化・高度化に対応できる、専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を全国に先駆けて独自で養成しています。また、平成30年4月からは、本学大学院看護学科研究科修士課程に「周麻酔期看護師教育課程」を設置し、「周麻酔期看護業務に関する高度医療技術修得者」を養成しています。

今回、臨床工学技士1名及び看護師1名が課程を修了し、認定審査を経て、吉川病院長から認定証が交付されました。お二人を含めて、現在14名の臨床工学技士と3名の看護師が、高度医療技術修得者として麻酔科医と共に周術期領域で活躍し、医師の働き方改革におけるタスクシフトの推進に貢献しています。



認定された西澤光一さんと王曉瑩さん

11.22 経団連「地域共創アクションプログラム」 交流会に参加しました

MBT研究所では、地域経済の持続可能な活性化に向けて経団連が主導する「地域共創アクションプログラム」の10テーマの1つの「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を創造する」テーマで参加しており、経団連会員等との連携のもの、医学を生かした地域産業創生や商品の開発とその拡大による産医連携の全国展開を進めています。

コロナ禍の影響で実現が延びていた第1回交流会が東京の経団連会館国際会議場で開催され、本学からは細井理事長とMBT研究所メンバーが参加しました。初めて顔を合わせた全国の連携メンバーとの活発な意見交換が行われました。今回の会合に参加し、MBTとの親和性を感じていただいた経団連会員企業とは、交流会以降WEB会議等で連携に向けての手続きを始められています。この催しはMBTの拡張性を発揮できる良い機会となりました。



交流会での細井理事長

11.19

「近畿地方DMATブロック訓練」と連携した災害医療訓練を実施しました

「A棟4階で火災発生しました。」「入院が必要な傷病者が多数います。」等の連絡が病棟や各治療エリアから危機管理ポータルシステム (BCPortal) や電話で災害医療統括部に入ります。

早朝から災害医療訓練を「近畿地方DMATブロック訓練」と連携して行いました。

近畿地方DMATブロック訓練は、近畿圏内からDMATが参集して行う訓練で、今年度は8年ぶりに奈良県が事務局を担当し、奈良県内で最大震度7の地震が発生したという想定で行われ、DMAT60チーム、隊員約300人が参加しました。

当院においても、院内各所で傷病者役の本学学生を対象にトリアージ訓練を行ったほか、BC棟2階職員食堂で災害医療統括部(本学災害対策本部の下部組織で、災害発生時の重症患者の受入、医療救護活動を実施)の運営訓練を行いました。

長時間に渡る訓練にもかかわらず、当院内より100名を超える職員の方にご参加いただき、院内各所から報告される内容に基づいて奈良県庁を始めとする他機関と実際に調整を行う等、リアルで白熱した訓練となりました。

当院は県民の最終ディフェンスラインとして、災害から県民を守り、地域の安心を確保する基幹災害拠点病院です。今回の訓練により浮かび上がった課題を確認し、災害医療体制、各種災害医療対策マニュアルの検証・見直し等に今後も取り組んで参りますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



訓練総括を行う西尾教授 (BC棟2階職員食堂)



中等症患者への対応を行う訓練参加者 (化学療法室)

11.24

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が資金調達を実施しました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」(代表取締役: 森英一朗)は、リアルテックホールディングス株式会社(所在地: 東京都墨田区、代表取締役: 丸 幸弘、永田 暁彦)が運営するリアルテックファンドとKTX株式会社(所在地: 愛知県江南市、代表取締役: 野田 太一)を引受先とした第三者割当増資により、プレシードラウンドとして資金調達を実施しました。今回の資金調達によって「分子の動きを見る」技術開発、研究開発環境の整備および研究員の採用、並びに経営体制の構築に取り組みます。研究開発環境の整備、研究員の採用を通じて、「chemical-tongue」のPoC (Proof of Concept) の取得、解析ソフトを含めたNMR解析技術の開発、技術の実装における知財周りの強化を進めます。また、経営陣の採用を通じて、事業会社との連携を進めていきます。



森代表取締役

11.24

奈良医大発ベンチャー モルミル株式会社が第2回Challenge万博に登壇しました

奈良医大発ベンチャー企業 モルミル株式会社の森英一朗代表取締役(未来基礎医学准教授)が関西イノベーションイニシアティブ主催の第2回Challenge万博「いのち輝く未来社会」に登壇しました。

本催しは、関西22大学の最先端技術等を東京で紹介し、新たな産学連携やビジネスモデル創出を目指して開催されたものです。会場には国内の有力なベンチャーキャピタルや、企業・銀行・大学等の関係者が参加しており、森代表取締役は奈良医大発ベンチャー企業を代表してモルミル株式会社の事業内容、加えて奈良医大発ベンチャー企業やMBTの活動なども紹介しました。モルミルをはじめ奈良医大発ベンチャーの今後の活躍が期待されます。



ベンチャーの紹介

11.12
11.25

「女性に対する暴力をなくす運動」の啓発活動を実施しました

「女性に対する暴力をなくす運動」が、内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁の主唱により、毎年11月12日から25日（女性に対する暴力撤廃国際日）まで、全国で実施されています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となって今年度の運動テーマである「性暴力を、なくそう」のポスターやリーフレットを大学や病院内に掲示しました。ポスター・リーフレットには、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターが明記されており、被害にあった場合の相談窓口の周知を図りました。

女性研究者・医師支援センターでは、今後も教職員や学生が安心して働き学ぶことのできる環境の整備に取り組んでいきたいと思っております。



令和4年度ポスター



大学構内10か所、病院内38か所にポスターを掲示しました

11.29

横断的共同研究助成事業 研究成果報告会を開催しました

本学では、複数の講座・領域等で取り組む横断的共同研究活動を助成し、連携研究活動の一層の活性化を図り、本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進する助成事業を実施しています。

このたび、助成期間が終了した研究課題（2019年度・2020年度の採択課題）の成果報告会を開催しました。

今後も、さらに研究成果を発展させて、本学の研究力向上に力を尽くして下さることを期待いたします。

「病態再現モデルの構築を基盤にした血友病の集学的研究」
生理学第二 教授 堀江 恭二

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策強化に資する基盤研究」
感染症センター 教授 笠原 敬



生理学第二 堀江恭二教授



感染症センター 笠原敬教授

11.29

医科大学附属病院南側地区のまちづくりに関する連携協定を締結しました

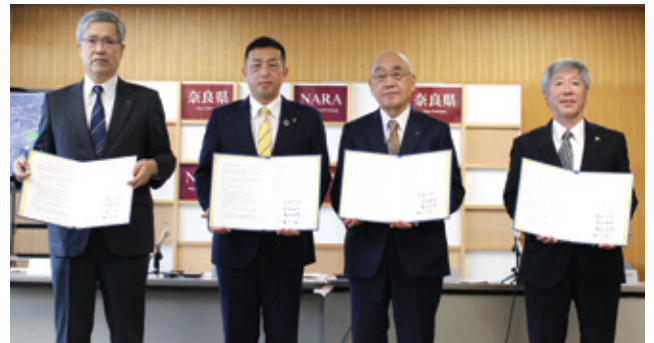
奈良県、橿原市、近畿日本鉄道株式会社と本学が、相互に連携協力しながら、医科大学附属病院南側地区のまちづくりに関する取組を推進するため、4者による連携協定を締結し、記者会見を行いました。

医大附属病院周辺への医大新駅の設置については、これまで八木西口駅の存廃が懸案であり協議が難航していましたが、今年の7月に県と近鉄の協議で「八木西口の廃止を条件とせず、費用負担、運営方法等に関して協議する」ことになりました。

本学にとって医大新駅が出来れば附属病院への来院患者や職員のアクセスがとても便利となり、また新キャンパスの最寄り駅として学生にとっても利便性のある施設となります。

記者会見で、荒井知事は、「医大新駅は、整備を検討している附属病院の新外来棟にも通いやすくなり、また、まちづくりの大きなスタートになるものと確信している。」と熱く抱負を語られました。

細井理事長・学長からも、「附属病院への直結するメリットが大きい。医大新駅は全体的に新・旧のキャンパスの中間地点となり便利が良くなる。」など期待感が大きいと報道陣に語りかけました。



都司近鉄社長、亀田橿原市長、荒井知事、細井理事長・学長

11.29 医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

医学科4年生 106名の Student Doctor 認定証・白衣授与式を3年振りに保護者同席で執り行いました。

初めに細井学長から医師としての将来展望について講話があり、その後、代表学生4名に「Student Doctor 認定証」が手渡されました。

続いて、学長・医学部長・附属病院長・同窓会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は医学科同窓会から寄贈された真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、國分同窓会長から激励のお言葉をいただきました。

最後に、学生を代表して吉田暁彦さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に実習に取り組み、医師としての自覚と責任を養っていくことを誓いました。



本学大講堂にて

12.1 「第2回MBT映画祭」の企画調整を行いました

技術士全国大会や HANAZONO EXPO など 11月までに MBT が参画したイベントの事後報告がなされるとともに、今後のイベント企画についての情報共有が行われました。特に来月に開催が迫った「第2回 MBT 映画祭」について、現在の状況報告をもとに準備のスケジュールや当日運営について詳細な確認が行われました。

「第2回 MBT 映画祭」は開催を東京に移し、クラウドファンディングの実施や観客賞の新設など、難病克服支援に関心をお持ちの方々に直接参加していただけるような試みを取り入れています。

MBT の存在を知っていただくだけでなく、作品を楽しみながら難病や難病克服支援活動への理解を深めていただける機会とできるよう引き続き運営に尽力してまいります。



運営体制について質問する細井理事長・学長

12.1 MBT 公開講座「MBT 活動進展報告」を開催しました

MBT 研究所では、MBT に関する理解を深めていただく機会として、学内外の方を対象に MBT 公開講座として「MBT 活動進展報告」を開催いたしました。

講演者の細井所長は、MBT の全体像を通じて、大学競争時代で本学が存在感を示し続けていくための将来戦略について語りました。

また、梅田副所長からは、日常生活から収集したバイタルや気象等の環境データから個人の健康状態を解析するプラットフォームを軸にして顧客特性に合った健康ソリューションを提供する『MBTLink HealthCare サービス』の最新動向が報告されました。

講演内容に対して頷きながら熱心に耳を傾けて下さる参加者の姿も見られ、MBT 活動の意義や成果をより深く知っていただける機会とできたと考えております。

なお、講演の様子は二次元バーコードからもご覧いただけます。



MBT 研究所細井所長



梅田副所長

12.3

奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました

本学と同志社女子大学の共催による合同講演会をならファミリー内の秋篠音楽堂において開催しました。

講演会は、同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「健康長寿のためにできること with コロナ時代を生きる」をテーマに、本学老年看護学・澤見一枝教授より「100年時代の健康対策～認知症予防の実践～」と題して、同志社女子大学看護学部・木村みさか特別任用教授より「当事者になって考える高齢者の体力と運動～フレイルへの挑戦～」と題してそれぞれ講演いただきました。

講演では、認知症予防や体力づくりについて、歌や動きを交えながらわかりやすく説明をいただき、楽しい講演会となりました。新型コロナウイルス感染症予防のため、人数を制限しての開催となりましたが、会場には、県内外から約120名の参加があり、テーマに関する関心の高さを伺うことができました。



嶋副学長による開会の挨拶



講演を行う澤見教授

12.2

大和平野中央田園都市構想関連事業 12.8 MBTモニター説明会を行いました

大和平野中央田園都市構想推進のための事業として奈良県からの補助を受け、2022年12月～2023年2月の3か月間にわたり、奈良県磯城郡3町（川西文化会館・あざさ苑（三宅町）・田原本町役場）で地域づくりの課題に取り組む健康モニター説明会を行いました。

MBT研究所の梅田副所長が担当され、健康意識の向上を図ることを目的として集計された体重、体温、血圧や睡眠等日々の健康データを今後の新しい健康サービスに利用させていただく予定です。

実験の参加者からは、機器の使い方に不安をいだきながらも楽しみにされている様子がうかがえました。

2月末に報告会を行い、今後もMBTの取り組みを全国に展開していきます。



説明を行う梅田副所長

12.7

人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました

訪問看護師1名と附属病院看護師1名の計2名が「人材交流在宅看護教育プログラム」の全カリキュラムを修了し、小竹在宅看護学教授から、「履修証明書」が手渡されました。

このプログラムは、訪問看護師及び病院看護師を対象としており、在宅・病院における看護の実験を経験し、互いの現状理解を深めることで、在宅看護のリーダーを育成することを目的とした人材交流のプログラムです。

9月1日からの3か月間、講義や演習の他、訪問看護師は附属病院で、附属病院看護師は訪問看護ステーションで実践を重ねました。

今後、修了生がこのプログラムで得た知見をそれぞれの現場で活かすことにより、病院と訪問看護ステーション間の連携が強化されることを期待しています。



修了バッジ



修了式

12.10

MBT ウエルシア薬局 健康ステーションを開催しました

ウエルシア薬局 橿原市中曾司店「ウエルカフェ」にて本学MBT研究所が健康ステーションを開催しました。

MBT研究所 梅田副所長とMBT研究所スタッフが、毛細血管（爪に専用オイルを1滴たらし血管観察、肌カメラ（キメ毛穴シミ美白度など）測定し、運動意識の改善・向上のアドバイス等を提供しました。

予約制で毎回17名程度の参加者からは、以前の結果と比較しながら健康アドバイスを受けることができているという意見を多くいただきました。

今後もMBTは地域コミュニティを深め、積極的に展開を図っていきたく思います。



毛細血管を確認する梅田副所長

12.12

令和4年度第2回キャンパスミーティングを開催しました

第2回キャンパスミーティングを大学本部棟3階大会議室で開催しました。

今回は医学科5年生総代の久保伊澄さん、看護学科2年生総代の植田悠斗さんが司会進行を担当し、学生自らがまとめた奈良医大生としての行動規範である「私たちのプロフェッショナル宣言」見直しに向けてや学生アメニティ整備に関することを中心に議論が進められました。およそ1時間のミーティングには、医学科・看護学科各学年の総代と医学部長、看護学科長をはじめ各教育部長、広く学生支援に関わってくださる先生方、教育支援課・附属図書館職員が参加し、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。



キャンパスミーティングの様子

12.26

大会議室の歴代学長肖像画を修復しました

大学本部棟3階の大会議室に、歴代学長等の肖像画が掲げられているのをご存じでしょうか。

このたび、昭和の時代に作成され、当時の技術で下地に写真を使っていたため、ひどく退色の進んでいた、安澄権八郎学長、石川昌義学長、堀浩学長、梅垣健三学長の肖像画を、元の色に修復しました。

今回、肖像画の額の中に、原画の白黒写真が丁寧に梱包されているのを発見し、この原画から最新のデジタル技術で、別のカラー写真等を参考に当時の色を復元することができました。

見違えるほど、色鮮やかになりました。



修復前



修復後

12.14

高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。

今回は、「分子生物学実験の基礎～制限酵素地図を作ってみよう～」をテーマにして、畝傍高校の生徒24名が参加しました。



実習終了後の参加者

生徒感想文一部抜粋

この講座を通して生物についてより興味を持つようになりました。授業で習った実験を自分の手で行い、結果を自分で分析することでより理解を深めることができました。班の子の結果がうまく出なかった時、なぜうまくいかなかったかを結果から逆算してみたり、制限酵素の位置判別を謎解き感覚で班の子と考え、話し合ったりと実際に実験をしないと出来ない経験をすることができました。また、分からないことや、ミスをしてしまった時には先生方がアドバイスや臨機応変な対応をくださり行程をスムーズに進めることができました。貴重な機会を設けていただき本当にありがとうございました。

普段の生物の授業では、文章や図でしか学べないことを実際に、体験、観察することができて良かったし、とても楽しかったです。実際にみることで授業では「本当に？」って思っていたことが、自分の目で見て確認できたのが何よりも感動しました。見たことない器具や、とても新鮮な環境で、自分の興味のあることができて面白かったです。知らない世界に囲まれてできて、大学って凄い！と思えたし、興味があることをここまでちゃんと知ることができるんだと思うと、大学生になるのが少し楽しみになりました。本当にありがとうございました。とっても楽しかったです。参加して良かったです。

1.14 難病克服支援第2回MBT映画祭を開催しました

MBTでは、稀少ゆえに社会での理解が進んでいない難病やその治療について広く知っていただくための啓発活動「MBT難病克服キャンペーン」を推進しています。その一環として、難病や命に関わる疾病罹患者さんや関係者の方々を映像作品を通じて勇気づけることを目的に、『みんなで守るいのち』をテーマとした短編映像作品を募集し、映画祭を開催しています。第2回となる今回は東京・有楽町での開催となりました。

当日、参加者約200名が見守る中、全応募作品38本から選出された入賞作品7本が上映され、審査委員長の映画監督・篠原哲雄氏を中心に、映画監督・難病患者会代表・医療従事者という様々な立場の審査委員陣による最終審査が行われました。

審査の結果、妹の怪我をきっかけとした交流から“生きる

こと”について考え始める青年の姿を描く『レミングたち』が最優秀作品賞に選ばれ、監督の角洋介氏は表彰式で受賞作への想いと次作への意欲を語られました。

また、特別ゲストとして駆けつけて下さった衆議院議員の野田聖子氏より「医療的ケア児との人生」と題してご講演いただきました。多忙を極める国会議員活動の裏側にある障害を持つお子様の育児奮闘記は、会場の感動を呼びました。

そのほか有名映画監督陣と入賞者によるトークセッション、2021年アカデミー賞受賞作品の特別上映と多彩な内容となった本映画祭は報道関係者からも注目いただき、ニュースや新聞で全国報道されました。

MBTでは今後も映像作品を通じた難病克服支援啓発活動に尽力してまいります。

最終審査結果

賞名	タイトル	監督名
最優秀作品賞	レミングたち	角 洋介
優秀作品賞	ぼくときみの小さな勇氣	相馬雄太
特別賞	「私じゃない私に」きょうだい児のものがたり	筈 嚙矢
	夏の夜の花	高橋伸彰
クラウドファンディング観客賞	「私じゃない私に」きょうだい児のものがたり	筈 嚙矢



野田聖子議員のご講演



細井理事長・学長の講演



受賞者と入賞者の記念写真

Winner Report

4.14

第65回日本手外科学会学術集会 若手研究者賞

整形外科学 医員 長嶋 光幸

この度、4月14・15日に開催された第65回日本手外科学会学術集会において演題「Distal radioulnar joint (DRUJ) ballottement testの信頼性の検討」を発表し、若手研究者賞を受賞いたしました。

本研究では、手関節不安定性の評価法であるHolding法によるDRUJ ballottement testの信頼性と妥当性を検証し、その有用性を示すことができました。今回の授賞は大変名誉なことであり、今後の研究の励みとなりました。引き続き、精進して参ります。日頃よりご指導いただいている面川庄平先生、田中康仁教授をはじめ、諸先生方に心から感謝申し上げます。



6.30

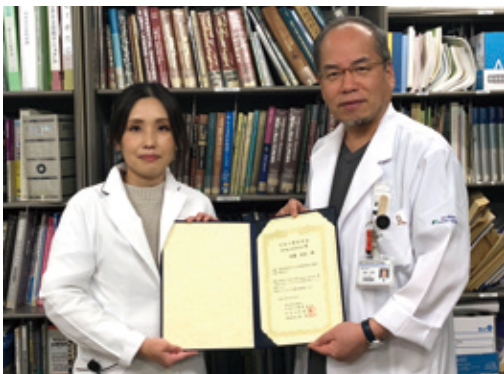
第76回日本口腔科学会学術研究会で Rising Scientist賞を受賞しました

口腔外科学 博士研究員 高橋 佑佳

この度、第76回日本口腔科学会学術研究会において発表した演題「癌胎児抗原 5T4 は味蕾幹細胞を制御し味蕾を維持する」が2022年度Rising Scientist賞を受賞いたしました。

味覚での新たな遺伝子発現について報告いたしました。味覚は解明されていないことが多い分野であり、今後も研究に邁進する所存です。

ご指導いただきました桐田忠昭教授をはじめ、大阪大学大学院生命機能研究科 坪井昭夫特任教授、香川大学医学部分子神経生物学 高橋弘雄講師に心から御礼申し上げます。

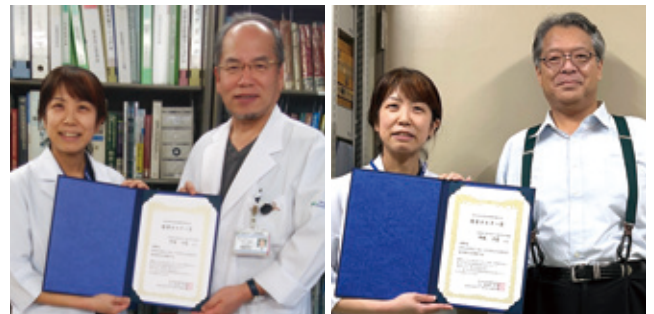


8.25

第46回日本頭頸部癌学会において 優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 医員 中嶋 千恵

6月17日～18日に奈良県コンベンションセンターにて開催された第46回頭頸部癌学会において優秀ポスター賞を受賞致しました。演題名は、「CPEはOSCCにおいてYAPとCLDN4の核内移行を誘発する」で、頭頸部癌に対し口腔衛生が及ぼす影響を基礎的に検討した報告です。ご指導賜りました桐田忠昭教授、國安弘基教授をはじめ、口腔外科、分子病理両教室の関係者の皆様にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。このような賞をいただくことができて大変嬉しく、受賞を励みに今後も精進してまいります所存です。



9.4

第58回日本医学放射線学会秋季臨床 大会で教育展示優秀賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 講師 伊藤 高広

9月2日～4日に開催された第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会に於いて演題「直腸癌の画像診断」を発表し、教育展示優秀賞を受賞いたしました。治療方針の決定に重要な直腸癌の画像診断法について、最新の考え方と古典的な手技の重要性を組み合わせた内容とし、教育的な内容となるように心がけて作成いたしました。田中教授をはじめ、多くの先生方のご指導、ご協力をいただきました。この場をお借りして厚く感謝申し上げます。



9.9

令和4年度救急医療功労者の厚生労働大臣表彰を受賞いたしました

総合医療学 教授 西尾 健治

この度、県の推薦をいただき、救急医療功労者の厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。この表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した個人や医療機関等の団体の功績をたたえるものです。2006年に奈良県初のDMAT隊員となって以来、奈良県の災害医療の代表として、県および当院の災害医療体制を整備してまいりましたこと、当科で平日20時まで救急車を受け入れてきたこと、当院に7年前に土日ER、本年より平日ERを立ちあげたこと、また昨今のコロナ災害におきましては、当院の診療体制を構築してきたこと、を評価していただいたことと、恐縮しております。実際に動いていただいておりますのは、奈良県内および当院の医療にかかわる皆さんであり、私だけに功労があるものではございません。皆様の代表として表彰していただいたものとして、今後とも精進してまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。



9.29

第81回日本癌学会で若手研究者ポスター賞を受賞しました

医学科6年(研究医養成コース) 佐々木 里歌

9月29日～10月1日に横浜市で開催された第81回日本癌学会で、若手研究者ポスター賞に選ばれ、賞状、トロフィーと副賞の贈呈を受けました。受賞した発表は「Oxidized HMGB1 contributes to the drug-resistance of colon cancer cells through mitochondrial transfer from mesenchymal stem cells」というもので、間葉系幹細胞から癌細胞へのミトコンドリアの移行の機序を解明し、ミトコンドリア移行が癌細胞の幹細胞性を亢進させることを示しました。ご指導下さった國安弘基教授ほか多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



9.18

第22回CRCと臨床試験のあり方を考える会議において最優秀演題賞を受賞しました

臨床研究センター 主査(技師) 島津 光希

9月17日～18日に開催された「第22回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2022 in 新潟」において、「はじめての再生医療等製品(ウイルス製剤) 治験～ウチでも実施できる!～」を発表し、最優秀演題賞を受賞しました。

ウイルス製剤は感染対策が重要です。調製や投与に加え、被験者様の食事や排泄を含めたケアが求められるため、実施体制の構築は容易ではありません。当院にて初のウイルス製剤治験実施となりましたので、他施設へ向けて発信しようと考えました。

一般演題124演題の中から選出いただき大変光栄に存じます。ご指導を頂きました笠原センター長をはじめ、関連部門の皆様にご心より感謝申し上げます。



9.30

第42回国際整形外科学会においてShanmuga S. Jayakumar Awardを受賞しました

整形外科学 講師 藤井 宏真

9月28日～30日、マレーシアで開催となった第42回国際整形外科学会(SICOT)において、小児整形外科分野でのBest Oral Presentation AwardであるShanmuga S. Jayakumar Awardを受賞いたしました。今回の発表では、主に手の外科チームが取り組んでこられた先天性下腿偽関節症に対する血管柄付き腓骨移植術後の仮骨延長の成績をまとめ発表いたしました。今回の受賞を励みに、今後も貢献できるよう努力を続けていく所存です。この場をお借りしてご指導いただいた田中教授はじめ、ご協力いただいた医局員の皆様、同門の先生方に感謝申し上げます。



Winner Report

10.8

第81回日本公衆衛生学会総会で 口演賞を受賞しました

公衆衛生学 博士研究員
(国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 研究員)

中西 康裕

10月7日～9日に山梨県で開催された日本公衆衛生学会総会において、演題名「大規模レセプトデータを用いた在宅医療需要の将来推計手法の確立」が口演賞を受賞しました。我々の研究グループは、大規模レセプトや人口データ等を活用し、奈良県における在宅患者の実態把握や将来需要の推計、地域差分分析などを行うことで、国や自治体が在宅医療・介護政策を推進するうえで一般的に活用可能な分析手法を提示・検証しました。このことは、今後の提供体制の改善を図るうえで重要な知見と考えられます。今村知明教授、赤羽学部長(国立保健医療科学院)、野田龍也准教授、西岡祐一助教を始めとする共同演者の皆様、事務の皆様により御礼申し上げます。



公衆衛生学 博士課程
(慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 研究員)

安福 祐一

10月7日～9日に開催された第81回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました。演題は「拡張型心筋症患者に対する早期心臓リハビリテーションが患者の短期予後に与える影響」で、早期心臓リハビリテーションが心不全症状を呈する拡張型心筋症患者の死亡割合の減少等に寄与する可能性を示しました。今村教授をはじめご指導を賜りました共著者の皆様、研究活動を支援して頂いた講座事務の皆様、厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も精進いたします。



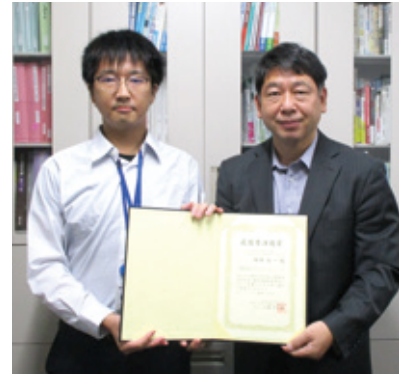
10.8

第81回日本公衆衛生学会総会で 最優秀演題賞を受賞しました

公衆衛生学 助教(糖尿病・内分泌内科) 西岡 祐一

山梨県で開催されました第81回日本公衆衛生学会総会で最優秀演題賞を受賞しました。演題名は「1型糖尿病発症に関わる因子—インフルエンザと1型糖尿病発症のTarget Trial Emulation」です。特に若年者においてインフルエンザ感染症が1型糖尿病発症率の季節性と関連している可能性を示しました。このことは1型糖尿病の病態を明らかにするうえで重要な知見です。

データベースの研究は、臨床/疫学/データベース/診療報酬請求明細書(レセプト)と多岐に渡る専門家の協働が不可欠であり、今回の受賞は本学のデータベース研究チームについて高い評価をいただいたものと考えます。受賞を励みに、引き続き研究に邁進して参ります。最後になりましたが、今村教授をはじめとする共著者の皆様、公衆衛生学講座事務担当の皆様、研究に関わってくださっている全ての方に改めて感謝申し上げます。



10.13

2021年度バイエル レチナ・アワードを受賞しました

眼科学 医員 吉川 匡宣

第72回日本臨床眼科学会でバイエル レチナ・アワードを受賞し、現在実施中のipRGC障害と眼血流の関連を検討する臨床研究に対して助成金(300万円)が支給されました。本アワードは網膜硝子体疾患の更なる理解、治療への応用といった医学的進歩に貢献する若い研究者の優れた研究計画をサポートする目的で設立されたプログラムです。受賞にあたりご指導頂いた緒方教授ならびに共同研究者の先生方、研究スタッフに深謝致します。



10.13

APLAR 2022 Excellent Abstract Award on JCRを受賞しました

整形外科学/リウマチ外来 医員 尾崎 裕亮

この度は日本リウマチ学会より APLAR 2022 Excellent Abstract Award on JCR を受賞いたしました。受賞演題は「Evaluation of Compensatory Function of the Subtalar Joint for Varus Type Knee Osteoarthritis using Long-leg Weight-bearing AP Radiographs」です。変形性膝関節症と後足部の関係について報告いたしました。受賞にあたり多くの御指導をいただきました田中教授や原先生をはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます。今後の日常診療・研究に一層精進して参りたいと存じます。



10.14

第126回日本眼科学会総会で学術展示優秀賞を受賞しました

眼科学 大学院生・医員 西山 武孝

4月6日～9日に開催された第126回日本眼科学会総会において、学術展示「ヒドロキノン(HQ)添加による網膜色素上皮細胞のメラニン量変化」を発表し、学術展示優秀賞を受賞しました。加齢黄斑変性の病態における色素異常の機序の一端を紐解くきっかけとなる報告でした。

今回の発表にあたりご指導いただきました緒方教授、辻中先生をはじめ、研究活動に集中できるよう環境を整えてくださった諸先生方に、この場を借りて厚く感謝申し上げます。



10.18

日本口腔外科学会研究助成「次世代若手臨床研究推進プロジェクト」に採択されました

口腔外科学 医員 上杉 兼真

2021・2022年度日本口腔外科学会研究助成「次世代若手臨床研究推進プロジェクト」に研究代表者として採択されました。課題名は「血友病患者における歯科口腔外科手術の術後出血リスク因子の検証：多施設後向きコホート研究」です。全国の血友病診療ブロック拠点病院で口腔外科手術を行った血友病患者の周術期止血管理に関するデータを収集し、口腔外科手術時の周術期止血プロトコルの標準化を目的に研究を行います。本研究の採択にあたり、柳生貴裕先生をはじめ、ご指導賜りました桐田忠昭教授に厚く御礼申し上げます。



10.21

医学教育等関係業務功労者表彰

看護部 看護指導主査 近藤 さつき
薬剤部 係長 寺田 知恵子

この度、上記の方々が令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

この賞は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に、文部科学省より授与されています。

10.22

日本癌治療学会で最優秀演題賞を受賞しました

医学科5年 今津 勇輝

10月20日～22日に開催された第60回日本癌治療学会学術集会において、最優秀演題賞を受賞させていただきました。受賞演題は「膀胱予後予測を目指したネクチンファミリー遺伝子パネルの開発」です。ご指導賜りました庄雅之教授、西和田敏先生をはじめ消化器・総合外科学教室の先生方、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も膀胱診療の向上を目指し、精進いたします。何卒よろしくお願いいたします。



Winner Report

10.22

令和4年度 日本消化吸収学会 学会賞を受賞しました

消化器内科学 講師 鍛冶 孝祐

この度、「リファキシミンによる肝硬変病態改善と腸内細菌叢・腸管バリア機能への効果」に関する演題を発表し、令和4年度 日本消化吸収学会 学会賞を受賞致しました。肝性脳症に対して血清アンモニア低下作用を示すリファキシミンが、腸内細菌叢を改変、また腸管バリア機能を改善させることにより、腸管から肝臓へのエンドトキシンの流入を防ぐことを基礎・臨床研究で新たに証明した内容になります。本研究にご協力頂きました吉治教授をはじめ、教室員の諸先生方へ深謝致します。



10.23

第26回日本心不全学会学術集会 で優秀演題賞を受賞しました

医学科3年 畔上 功太郎

10月21日～23日に開催された第26回日本心不全学会学術集会における一般口演で、「心筋症原因遺伝子変異絞り込みにおける心臓高発現遺伝子群の妥当性の検討」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。本研究はリサクラにて理研 生命医科学研究センターで研究させていただいた成果であり、心臓高発現遺伝子群による原因遺伝子変異の絞り込みがどの程度妥当な方法であるかを示す研究でした。

ご指導いただきました理研の伊藤薫先生、循環器内科学の斎藤能彦先生、尾上健児先生に厚く御礼申し上げます。



10.23

第26回日本心不全学会学術集会 Young Investigator's Award (YIA) 最優秀演題賞

循環器内科学 診療助教 野木 一孝

この度、10月21日～23日に開催された第26回日本心不全学会学術集会において、YIA 最優秀演題賞を受賞いたしました。本研究は、NT-proBNP ≥ 125 pg/mL の患者を高率に予測する『BASE-CH(BMI, age, systolic blood pressure, eGFR, CTR, heart disease)』スコアの有用性を報告しました。ご指導くださった斎藤能彦前教授をはじめ、循環器内科学教室や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みとし、今後も循環器内科学の発展に貢献できるよう日々精進してまいります。



10.29

第48回日本神経内分泌学会学術 集会で学会賞を受賞しました

解剖学第一 教授 西 真弓

10月29日～30日に栃木県下野市の自治医科大学で開催されました第48回日本神経内分泌学会学術集会におきまして、学会賞を受賞致しました。本学会賞は、神経内分泌学領域で卓越した業績をあげるとともに日本神経内分医学会の進歩発展に大きく貢献した研究者に授与されるものです。これまで共に研究をしてきた同僚ならびに学会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



10.29

日本神経内分泌学会 川上賞を受賞しました

解剖学第一 講師 堀井 謹子

この度、10月29、30日に開催された第48回神経内分泌学会学術集会において、「不確かな脅威に対処する神経メカニズムと強迫性障害との関連性」と題する研究にて、第37回川上賞を受賞することができました。本研究は、視床下部に新しい領域を発見・報告したことをきっかけに、本領域のニューロンの種類や投射、機能について明らかにしたものです。本研究によって、視床下部のウロコルチン-3ニューロンが「曖昧・不確かな脅威」に対する確認行動等の防御行動調節を担い、また、本防御システムが強迫性障害のひとつの症状である「確認強迫」と関係する可能性が、世界で初めて示唆されました。これを励みに、今後も基礎医学研究が人々の健康や幸せに結びつくよう精進して参りたいと思えます。本研究を長きに渡り支えて下さいました西真弓教授、第一解剖学教室のスタッフならびに共同研究者の皆様がこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



11.11

第38回日本脳神経血管内治療学会学術集会 で優秀ポスター賞金賞に選ばれました

脳神経外科学 大学院生 田中 伯

11月10日～12日に開催された第38回日本脳神経血管内治療学会学術集会で優秀ポスター賞の金賞に選ばれました。受賞した発表は「非大型脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術はフローダイバーター治療に勝る治療か？-PREMIER試験との比較-」というもので、脳動脈瘤治療において発展し普及しつつある「フローダイバーター治療」に対して一石を投じた発表となっております。本受賞を励みとし、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。中瀬裕之教授、中川一郎病院教授ほか多くの先生方にご指導いただいたおかげでこの度受賞できました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



11.12

日本臨床麻酔学会第42回大会メディカルスタッフ セッションで最優秀演題賞を受賞しました

看護部リソースナースセンター 周麻酔期看護師 岡本 直子

11月11日～12日に開催された日本臨床麻酔学会第42回大会で「案内ロボット (Pepper) を用いた小児麻酔術前説明動画の導入と評価」のタイトルでメディカルスタッフセッションにおいて最優秀演題賞を受賞しました。内容は、年齢別に作成した Pepper の麻酔説明動画を視聴した小児と Pepper 動画を視聴しなかった小児で、術前不安と麻酔導入時の協力度に差があるかを検証したものです。今回の研究では動画の作成から麻酔導入中の小児の状態評価に至るまで多くの先生方に御協力いただき受賞できました。今後も周麻酔期看護師としてできる研究や挑戦を続けていきたいと思えますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。



11.24

令和4年度奈良県医師会学術 奨励賞の受賞者が決定しました

循環器内科学 診療助教 野木 一孝
血栓止血分子病態学講座 助教(寄附講座) 下西 成人
脳神経内科学 助教 七浦 仁紀

奈良県医師会館において、令和4年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞式がありました。奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、大学卒業後12年以内であり、かつ有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に奈良県医師会より贈呈される賞です。本学からは、下記の3名の先生方に受賞の決定がありました。

本学術奨励賞は、毎年6月頃に応募案内を配布しております。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。



塩田医員(宇陀市立病院)、七浦助教、下西助教、野木診療助教

Winner Report

11.30

第108回北米放射線学会 Education Exhibitで Certificate of Merit Awardを受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 山田 彩

この度、11月27日～12月1日に開催された第108回北米放射線学会 (RSNA) の Education Exhibit において Certificate of Merit Award を受賞させていただきました。演題名は "A Pictorial Review of Pleural Disease: Multimodality Imaging and Differential Diagnosis" です。腫瘍や炎症など、様々な胸膜病変の画像所見に関して報告致しました。

RSNA は世界最大の放射線関連の国際学会であり、このような賞を頂くことが出来たことを大変嬉しく思っています。ご指導頂きました太地良佑先生に心より感謝申し上げます。

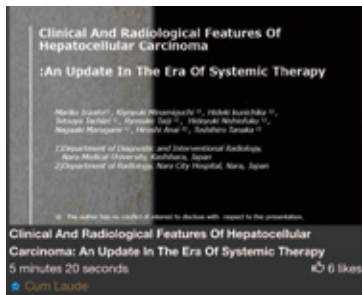


12.1

第108回北米放射線学会 (RSNA2022) で Cum laude 賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 入里 真理子

この度は第108回北米放射線学会 (RSNA2022) において、1000を超える展示の中から Cum laude 賞を頂き誠に光栄に思います。今回の展示は、肝細胞癌の免疫チェックポイント阻害薬を含めた最新の治療効果と、主にMRIの肝細胞相の信号との関連についてこれまでの知見をまとめたものになります。国をまたいでご指導いただいた南口貴世先生 (MD Anderson Cancer Center) はじめ、田中利洋教授、今回の発表に関してお世話になった医局の先生方に感謝申し上げます。今後とも肝細胞癌の診断から治療まで高いレベルで携わっている放射線科医を目指して励んでいく所存です。

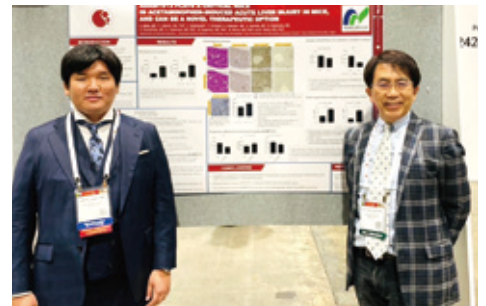


12.11

ASH2022で Abstract Achievement Awardを受賞しました

総合医療学 大学院生 佐和 明裕

12月10日～13日に米国ニューオーリンズで開催された64th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition (米国血液学会学術集会) において、演題「ADAMTS13 Plays a Critical Role in Acetaminophen-Induced Acute Liver Injury in Mice, and Can be a Novel Therapeutic Option」を発表し、Abstract Achievement Award を受賞いたしました。マウスを用いた基礎研究を行い、アセトアミノフェン誘発薬剤性肝障害におけるVWF-ADAMTS13軸の関与と、治療薬としてのADAMTS13の可能性について報告しました。今回の研究や発表に際してご指導いただきました、西尾教授や血栓止血先端医学講座の辰巳准教授をはじめ、ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。



令和4年度 外部資金獲得状況

172件 589,968,749円 (間接経費を含む) (令和4年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	日本の輸血医療における指針・ガイドラインの適切な運用方法の開発
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症対策に取組む食品事業者における食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	保険収載されている医療技術の再評価方法を策定するための研究

②研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	HIV 感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	公衆衛生学 野田 龍也
		助教	明神 大也		
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	講師	宮川 史	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	皮膚科学 浅田 秀夫
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	助教	明神 大也	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究	公衆衛生学 今村 知明
		准教授	野田 龍也		
		博士研究員	西岡 祐一		
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	助教	次橋 幸男	保険収載されている医療技術の再評価方法を策定するための研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	明神 大也		
難治性疾患政策研究事業	脳神経科内科学	教授	野田 龍也	スモンに関する調査研究	鈴鹿病院 久留 聡
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	糖尿病の実態把握と環境整備のための研究	東京大学 山内 敏正
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・ 内分泌内科学	教授	高橋 裕	性分化・性成熟異常を伴う内分泌症候群（プラダー・ウイリ症候群・ヌーナン症候群を含む）の診療水準向上を目指す調査研究	浜松医科大学 緒方 勤
難治性疾患政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療専門職の実態把握に関する研究	東京医療保健大学 小野 孝二
	教育開発センター 公衆衛生学	特任講師 助教	岡本 左和子 西岡 祐一		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	国立精神・ 神経医療研究センター 栗山 健一
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究	摂南大学 小川 俊夫
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授 准教授	今村 知明 野田 龍也	臨床疫学に活用可能な NDB 等データセットの作成に関する研究	京都大学医学部附属病院 森 由希子
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質評価と医療情報の提供に関する調査研究	聖路加国際大学 福井 次矢
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病対策推進基本計画に基づいた、都道府県の有用な目標指標の設定のための研究	神戸大学 平田 健一
	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之		
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・ 内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	名古屋大学 有馬 寛
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業)	総合周産期母子 医療センター 新生児集中治療部門	助教	谷 有貴	ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究	昭和大学 水野 克己
難治性疾患政策研究事業	整形外科	准教授	谷口 晃	早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者 QOL を向上する全国研究	千葉大学 横手 幸太郎
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究	千葉大学 谷口 俊文
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築	国立成育医療研究センター 森田 英明
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
難治性疾患政策研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	東京女子医科大学 針谷 正祥
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	総合画像 診断センター	病院教授	平井 都始子	我が国における公衆衛生的観点からの健康診査の評価と課題	東京慈恵会医科大学 和田 高士
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	金沢大学 和田 隆志
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	大阪医療センター 渡邊 大
がん対策推進総合研究事業	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	名古屋大学 小寺 泰弘
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究	東京大学 小池 和彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	健康増進に向けた住宅環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美 真一
がん対策推進総合研究事業	産婦人科学	教授	木村 文則	小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究 - 患者本位のがん医療の実現を目指して	聖マリアンナ医科大学 鈴木 直
地域医療基盤開発推 研究事業	救急医学	教授	福島 英賢	救急医療等における基盤整備のための情報項目等の標準化に資する研究	東北大学 久志本 成樹
難治性疾患政策研究事業	泌尿器科学	准教授	鳥本 一匡	間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	東京大学 本間 之夫
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	ドクターヘリの効果的な運用と安全管理に関する研究	東海大学 猪口 貞樹

Winner Report

健康安全・危機管理対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	地域保健における保健所に求められる役割の明確化に向けた研究	浜松医科大学 尾島 俊之
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	国や都道府県が循環器病対策に関する計画を策定する際に利用可能な指標の設定、及び新型コロナウイルス感染症による循環器病への影響の評価のための研究	大阪大学 岡田 佳榮
		准教授	野田 龍也		
		助教	西岡 祐一		
		助教	明神 大也		
		教授	中瀬 裕之		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	脳卒中センター 脳神経外科学	病院教授	中川 一郎	国立保健医療科学院 赤羽 学
		講師	山田 修一		
		助教	西岡 祐一		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	博士研究員	次橋 幸男	医療および介護レセプトデータ分析による在宅医療・介護連携推進のための適正な評価指標等の提案のための研究	日本体育大学 横田 裕行
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	高知大学 横山 彰仁
慢性的な痛み政策研究事業	ペインセンター	病院教授	渡邊 恵介	痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	福島県立医科大学 矢吹 省司
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症センター	病院教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスのための研究	国立感染症研究所 明田 幸宏
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	新興・再興感染症のリスク評価とバイオテロを含めた危機管理機能の実装のための研究	国立感染症研究所 齋藤 智也
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	新型コロナウイルス追加接種並びに適応拡大にかかわる免疫持続性および安全性調査	順天堂大学 伊藤 澄信
公衆衛生学	教授	今村 知明			
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	助教	明神 大也	医療現場や医療機関間等における情報利活用の環境整備に向けた医療用語の標準化に関する研究	東京大学 今井 健

(2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
橋渡し研究プログラム	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
脳とこころの研究推進プログラム	未来基礎医学	准教授	森 英一郎	相分離破綻に起因する神経変性疾患に関する研究開発
脳とこころの研究推進プログラム	精神医学	学内講師	山室 和彦	「脳とこころの研究推進プログラム(領域横断的かつ萌芽的脳研究プロジェクト)」
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	抗 ADAMTS13 阻害抗体による後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のための AI を活用した自動病理診断システムの開発～希少・分類不能心筋症の自動抽出システムの開発～
革新的先端研究開発支援事業	精神医学	准教授	牧之段 学	早期ライフステージにおける前頭前野の髄鞘形成は社会性を制御するのか？
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	世界最大劇症型心筋炎レジストリを用いた長期疫学調査及び予後予測モデルの開発
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝腎症候群の新たな病態解析と治療開発・血栓性微小血管障害に基づく機序と遺伝子組み換え ADAMTS13 療法
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究
障害者対策総合研究開発事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	遺伝性神経変性疾患に関わる RNA 結合タンパク質のアミノ酸変異の相分離異常解析
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	疾患モデルオンチップ血管網によるスタージ・ウェーバー症候群の異常脳血管の再現と病態解明
難治性疾患実用化研究事業	生理学第二	講師	坂野 公彦	

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
橋渡し研究プログラム	血液内科学	教授	松本 雅則	Phase 1 試験の結果を踏まえた Phase 2 試験のプロトコル詳細の策定	化学 酒井 宏水
橋渡し研究プログラム	小児科学	教授	野上 恵嗣	人工赤血球製剤の流動条件下における血液止血凝固系への影響	化学 酒井 宏水
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 斎藤 嘉朗
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	助教	早川 正樹	ヒト化 A10 の in vitro 薬効検討	血液内科学 松本 雅則
難治性疾患実用化研究事業	病理診断学	講師	武田 麻衣子	心筋病理組織画像の AI 診断支援アルゴリズムの開発	循環器内科学 尾上 健児
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	心筋生検の解析	循環器内科学 斎藤 能彦
肝炎等克服実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	ADAMTS13/vWF 二重欠損マウスの作製および phenotype の評価	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	ADAMTS13/vWF 二重欠損マウスの作製および phenotype の評価	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	講師(寄附講座)	瓦谷 英人	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与によるエンドトキシン活性、MΦマーカーの動態変化解析	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	講師(寄附講座)	瓦谷 英人	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与によるエンドトキシン活性、MΦマーカーの動態変化解析	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	助教	久保 貴裕	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血管関連マーカー測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	助教	久保 貴裕	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血管関連マーカー測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	博士研究員	高谷 広章	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血清 vWF/ADAMTS13 活性測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	博士研究員	高谷 広章	肝腎症候群に対するアルブミン製剤投与の効果予測における血清 vWF/ADAMTS13 活性測定の有用性	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	消化器内科学 吉治 仁志
肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	学内講師	西村 典久	マウス肝腎症候群モデルに対する遺伝子組み換えヒト ADAMTS13 の治療効果の検証	

障害者対策総合研究開発事業	臨床研究センター	特任講師	井上 隆	臨床研究用装置の臨床統計に関する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 北原 紘
創薬基盤推進研究事業	血栓止血医薬生物共同研究講座	特任助教	坂田 飛鳥	アプタマーの生体での効果と毒性の確認	国立大学法人 東京大学 吉本 敬太郎
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	レジストリと連携した筋強直性ジストロフィーの自然歴およびバイオマーカー研究	国立大学法人 大阪大学 高橋 正紀
脳とこころの研究推進プログラム 精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト	精神医学	准教授	牧之段 学	免疫細胞による精神病理の操作を目指して	国立大学法人 神戸大学 内匠 透
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)	精神医学	助教	盛本 翼	AYA 世代の精神疾患高リスク群における予防的睡眠マネジメントに関する研究	学校法人 東邦大学 根本 隆洋
ゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 先端ゲノム研究開発	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	精緻な疾患レジストリーと遺伝・環境要因の包括的解析による糖尿病性腎臓病、慢性腎臓病の予後層別化と最適化医療	川崎医科大学 柏原 直樹
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	糖尿病性腎症、慢性腎臓病の重症化抑制に資する持続的・自立的エビデンス創出システムの構築と健康寿命延伸・医療最適化への貢献	川崎医科大学 柏原 直樹
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	難治性腎疾患の疾患・重症度分類の再定義に向けた研究開発	名古屋大学 丸山 彰一
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	東北大学 齋木 佳克
エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立国際医療研究センター 照屋 勝治
次世代がん医療加速化研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	統合的複合がん免疫療法を目指した樹状細胞活性化アラミン、HMGN1 ペプチドに関する研究開発	東京理科大学 橋本 隆治
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	未来基礎医学	准教授	森 英一郎	細胞外マトリクスを介した血管リモデリング機構の解明と加齢変化の解析	国立循環器病研究センター 山城 義人
免疫アレルギー疾患実用化研究事業	整形外科	学内講師	原 良太	関節リウマチ患者のサルコペニア改善と分子標的薬の寛解休業をめざした運動療法の治療ストラテジー開発	大阪公立大学 橋本 求
エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 関連病態である血友病の豊かな未来を目指した画期的治療法・診断法の創出	自治医科大学 大森 司
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	まつもと医療センター 中村 昭則
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	インターフェロンフリー治療が C 型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	大阪大学 竹原 徹郎
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	人国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
ゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 先端ゲノム研究開発	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
ゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 先端ゲノム研究開発	循環器内科学	講師	尾上 健児	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展	東京大学 野村 征太郎
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業 希少難治性疾患の診療に直結するエビデンス創出研究(エビデンス創出)	循環器内科学	講師	尾上 健児	慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	三重大学 今中 恭子
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	高ずり応力を伴う循環器疾患に伴う消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	東北大学 堀内 久徳
障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)	精神医学	准教授	牧之段 学	精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	国立精神・神経医療研究センター 中込 和幸
臨床研究・治験推進研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	患者レジストリを活用した筋萎縮性側索硬化症治療薬開発のための第 2 相医師主導治験	京都大学 井上 治久
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	SJS/TEN 眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	京都府立医科大学 外園 千恵
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	液-液相分離の制御と破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症の分子機構解明	徳島大学 齋尾 智英
医工連携・人工知能実装研究事業	精神医学	准教授	牧之段 学	AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するマルチモダリティ低分子治療薬の開発	ロート製薬株式会社 野中 秀紀
革新的先端研究開発支援事業 マルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明による革新的医療技術開発(AMED-CREST)	精神医学	准教授	牧之段 学	脳機能障害の malignant loop 抑制手法の開発	国立精神・神経医療研究センター 村松 里衣子
橋渡し研究プログラム	循環器内科学	講師	尾上 健児	ナチュラルキラー T 細胞活性化による慢性炎症制御に基づく新たな心不全治療の実用化	九州大学 筒井 裕之
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	新生児から成人までに発症する特異性血栓症の診療アルゴリズムの確立	九州大学 大賀 正一

Winner Report

(3) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	
戦略的創造研究推進事業 JST CREST	脳神経外科学	講師	田村 健太郎	脳表現空間インタラクション技術の創出	大阪大学 柳澤 琢史
戦略的創造研究推進事業 JST CREST	精神医学	助教	岡崎 康輔	仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練	奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲
研究成果展開事業 共創の場形成支援 産学共創プラットフォーム共同研究推進 プログラム JST-OPERA	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	安全な酸化剤による革新的な酸化反応活性化制御技術の創出に関する公立大学法人奈良県立医科大学による研究開発	大阪大学 井上 豪

(4) 全国健康保険協会

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
外部有識者を活用した委託研究	公衆衛生学	教授	今村 知明	生活習慣病の疾病別医療費の地域差に関する研究	摂南大学 小川 俊夫

(5) 奈良県

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
奈良県研究開発支援事業	MBT 研究所	研究教授	細川 洋治	超音波ガイド下手術・手器具の開発事業

(6) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(7) 公益財団法人エイズ予防財団

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症センター	講師	福盛 達也	HIV 感染者等保健福祉相談事業

(8) その他 財団法人等

団体名	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 小児医学研究振興財団	生理学第二	講師	坂野 公彦	マルチオミックス解析を用いたアミノアシル tRNA 合成酵素異常症の病態解明
公益社団法人 日本皮膚科学会	皮膚科学	准教授	新熊 悟	X 染色体の不活性化機構を応用した細胞競合モデルマウスの作製
公益財団法人 てんかん治療研究振興財団	生理学第二	講師	坂野 公彦	微小チップ血管網灌流モデルを用いた、スタージウェーバー症候群におけるてんかん発症機序の解明と治療法の開発
公益財団法人 喫煙科学研究財団	精神医学	准教授	牧之段 学	劣悪な小児期体験が惹起する炎症反応に対するニコチン抗炎症効果の検討
公益財団法人 稲盛財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	マウス卵子の機能形成及び生存を保証する転写制御機構の解明
バイエル薬品株式会社	眼科学	医員	吉川 匡宣	内因性光感受性網膜神経節細胞障害による生体リズムの乱れが眼血流へ及ぼす影響
公益財団法人 杉浦記念財団	臨床研究センター	助教	鈴木 渉太	外国人が安心して暮らせる地域創生 ～処方箋トラブル解消に向けたシミュレーション～
ジョンソンエンドジョンソン株式会社	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	肝胆膵癌に対する新たな免疫治療法の開発
公益財団法人 大阪難病研究財団	精神医学	助教	小森 崇史	マイクログリアが社会脳形成に与える影響についての研究
一般社団法人 日本糖尿病学会	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	レセプトビッグデータを用いた 1 型糖尿病発症に関連する環境因子の同定
Bayer Consumer Care 社	小児科学	准教授	武山 雅博	Development of High Performance Factor VIII and Its Application to Hemophilia A Therapeutic Agents
公益社団法人 日本女医会	皮膚科学	講師	宮川 史	(現在までの臨床・研究・教育・社会貢献と今後の目標)
アヴィ合同会社	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	パーキンソン病における原因が不特定な下腹痛の病態解明
公益財団法人 武田科学振興財団	精神医学	学内講師	山室 和彦	ニューロモデュレーションの作用機序解明と ASD モデルマウスへの応用
公益財団法人 日本応用酵素協会	総合医療学	医員	松原 正樹	疾患特異的 iPS 細胞を用いた糖尿病の成因・病態解明、新規治療法開発を目指した研究
公益財団法人 日本応用酵素協会	循環器内科学	助教	中田 康紀	心腎連関に関する P1GF と sFlt-1 の臨床的意義およびその機序の解明
加齢皮膚医学研究会	皮膚科学	准教授	新熊 悟	弾性線維の恒常性に関わる γ -グルタミルカルボキシラーゼ (GGCX) の機能解析法の確立
ファイザー株式会社	循環器内科学	助教	中川 仁	原因不明の心筋症が疑われる患者を専門医療機関に紹介する体制構築のための取り組み
公益社団法人 日本口腔外科学会	口腔外科学	医員	上杉 兼真	血友病患者における歯科口腔外科手術の術後出血リスク因子の検証：多施設後向きコホート研究
一般社団法人 日本血栓止血学会	輸血部	医員	久保 政之	真性多血症に伴う後天性フォンウィルブランド症候群の病態解析—ADAMTS13 による過剰切断の関与—
一般社団法人 日本血栓止血学会	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	幹細胞技術および体細胞リプログラミング技術を基盤とした血友病 A 細胞療法の開発
公益財団法人 三菱財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	機能的配偶子ゲノムの構築と細胞質成熟をカップリングする卵特異的転写制御機構
エイムオー・ジャパン株式会社	眼科学	学内講師	辻中 大生	タキサン系抗がん剤による黄斑浮腫発症のメカニズム解明とその予防
日本血液学会	輸血部	医員	久保 政之	骨髄増殖性腫瘍に伴う後天性フォンウィルブランド症候群の病態解析—ADAMTS13 による過剰切断の関与—
バイエル薬品株式会社	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	血友病 A 細胞治療の確立に向けた血液凝固第 VIII 因子発現機構の解明と応用
バイエル薬品株式会社	循環器内科学	医員	野木 一孝	特定健診項目を用いた心不全早期診断アルゴリズムの開発
公益財団法人 住友財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	卵子機能を創る核・細胞質成熟の連動機構
公益財団法人 黒住医学研究振興財団	分子病理学	講師	谷 里奈	ヒト別検症例におけるがん性悪液質関連心筋障害の病理組織学的検討
公益社団法人 日本看護協会	母性看護学	教授	五十嵐 穂子	新型コロナウイルス感染症感染拡大下における周産期の母子への看護 / 助産ケアに関する研究
ジョンソンエンドジョンソン株式会社	産婦人科学	助教	三宅 龍太	新規抗癌薬 Plitidepsin の Apoptosis 誘導作用による卵巣明細胞癌の新規治療戦略
ジョンソンエンドジョンソン株式会社	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	造影頸動脈超音波診断による不安定プラークの評価のためのスコアの確立
公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団	精神医学	学内講師	山室 和彦	幼若期逆境体験がもたらす前頭前野—視床室傍核におけるオキシトシンの影響
日本白斑学会	皮膚科学	准教授	新熊 悟	メラノサイトと表皮角化細胞の細胞間相互依存に着目した白斑治療法の開発
公益財団法人 内藤記念科学振興財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	In vitro 卵子誘導系を駆使して解き明かす全能性細胞形成の獲得機序

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。基金創設以来、令和4年12月末で累計4,051件のご寄附をいただいております。なお、今号では令和4年9月～令和4年12月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載しております。(五十音順)

【個人】

◆100万円以上

秋田 雅弘 様	伊藤 和男 様	大植 睦 様
大島 克宏 様	大鶴 昇 様	大西 英之 様
吉川 公彦 様	齊藤 正幸 様	高橋 純 様
土居 通明 様	矢野 寿一 様	矢野 博丈 様
善本英一郎 様		

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆30万円以上100万円未満

生駒 一憲 様	伊藤 高広 様	稲垣 有佐 様
河村 健二 様	菊川 政次 様	北村 弥 様
熊田 幸江 様	倉井 信夫 様	桑原 理充 様
小林 浩 様	小山 文一 様	齊藤 弥穂 様
嶋 緑倫 様	庄 雅之 様	新名 直樹 様
杉江 和馬 様	鈴木 裕 様	田中 利洋 様
田中 康仁 様	田畑 尚一 様	田伏 守 様
田村 猛夏 様	鶴屋 和彦 様	寺田 秀興 様
中森 孝文 様	野上 恵嗣 様	橋本 浩 様
三上 洋 様	八木 正躬 様	山上 裕章 様
米田 龍生 様		

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円以上30万円未満

浅川 勇雄 様	浅田 潔 様	井内孝太郎 様
五十嵐稔子 様	石澤美保子 様	石田 仁志 様
泉 哲石 様	伊藤 利洋 様	今村 知明 様
岩田栄一郎 様	岩田 正人 様	上平 悦子 様
植村 信子 様	上山 健一 様	鷓山 秀人 様
岡田 祐一 様	岡本 忠幸 様	小川 宗宏 様
粕田 承吾 様	神谷 達 様	川口 昌彦 様
北原 紬 様	城戸 顕 様	木下 國浩 様
小味淵智雄 様	杉本 靖 様	須崎 康恵 様
竹邑 利文 様	田中 末子 様	田中 宣道 様
田邊 香 様	鳥塚 通弘 様	中川 一郎 様
中島 英彦 様	二階堂雄次 様	西 憲幸 様
西尾 健治 様	西澤 秀美 様	西村 忠己 様
橋本 俊雄 様	坂東 晴美 様	久永 學 様
福原 昌夫 様	福山由美子 様	牧之段 学 様
松岡 究 様	松田 良介 様	峯 克彰 様
村尾 佳則 様	山田千賀子 様	吉川 高宏 様
若月 幸平 様		

掲載を希望されないご寄附者様 24名

◆10万円未満

浅井 達哉 様	井内 清美 様	五十川雅裕 様
伊藤 直 様	岡田 廣 様	小川 佳宏 様
角谷 勇一 様	狩山 純子 様	河野 悌司 様
瓦谷 英人 様	北村 華奈 様	北村 里奈 様
久下 博之 様	小竹久美子 様	児玉 浩明 様
小林 恭代 様	鮫島 謙一 様	下里 直隆 様
下里 寛子 様	高木 宏哲 様	高谷 恒範 様
田中美千子 様	趙 晶 様	對馬 英雄 様
土井 駿介 様	玉井 涉 様	長瀬かおり 様
長瀬 一成 様	長瀬 善昭 様	瀧田 薫 様
堀内 俊孝 様	松平 崇 様	宮崎 敬太 様
山佐 義行 様		

掲載を希望されないご寄附者様 44名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

相原 康信 様	赤羽たけみ 様	井上 毅 様
井上 隆 様	井上 正純 様	裏山 悟司 様
奥 正之 様	笠間 周 様	加輪上浩之 様
木田 恵子 様	桐田 忠昭 様	桐山 敬生 様
澤見 一枝 様	杉山 友悦 様	竹川 隆 様
辰巳 公平 様	田中 暢洋 様	近山 達 様
中平 毅一 様	浪崎 正 様	西 真弓 様
西峯 潔 様	沼畑 千晶 様	野村 泰充 様
橋爪 隆 様	堀江 恭二 様	前川 健二 様
前川 尚宣 様	三浦 太士 様	美登路 昭 様
村澤 宏和 様	室 繁郎 様	藪本 明広 様
山川 延宏 様	山田 久和 様	山中富美男 様
山室 和彦 様	吉田 守 様	

【法人・企業】

◆100万円以上

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP : <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

	日付	媒体	対象者	掲載概要
2022年	6月27日～8月29日	京都新聞 他12社	県民健康増進支援センター 特任准教授	富岡 公子 保健師数が感染者数を左右 コロナで重要性判明
	9月12日～25日、2023年1月16日～29日(再)	KCNスポーツ&カルチャー KCNゼミナール	消化器内科学 教授 准教授 助教 助教	吉治 仁志 赤羽たけみ 辻 裕樹 竹田 惣一 榎本 壮秀 肝がん撲滅市民公開講座「肝臓病を克服する」
	10月18日	ラジオ NIKKEI ドクターサロン	皮膚科学 教授	浅田 秀夫 带状疱疹ワクチンについて
	10月19日	読売新聞	がんゲノム・腫瘍内科学 教授	武田 真幸 がんの知識 医師に学ぶ 県立高田高校でがんの予防や治療について講演
	10月20日	九州医事新報社	総合医療学 教授	西尾 健治 講座クローズアップ「幅広い疾病、障害に対応する総合診療医を育成」
	11月12日	読売新聞	感染症センター 教授	笠原 敬 感染症医 育成進まず「終わった学問」不遇の歴史
	11月14日	ラジオ大阪 新しいあなたの朝に！ハッピー・プラス	地域医療学講座 教授	赤井 靖宏 〈早期診断・治療〉あなたが知らない糖尿病のホント(予防)知らなきゃ損！糖尿病合併症は防げます！
	11月14日	ラジオ大阪 原田年晴かぶりつきマンデー	地域医療学講座 県民健康増進支援センター 教授 係長	山口 千影 〈食事療法〉美味しく食べて糖尿病予防
	11月14日	ラジオ大阪 Hit&Hit!	地域医療学講座 医療技術センター 教授 係長	赤井 靖宏 田中 秀和 〈運動〉糖尿病と悪化を防ぐ運動のコツ
	11月14日	ラジオ大阪 hanashikaの時間。	地域医療学講座 教授	赤井 靖宏 〈糖尿病に負けない〉糖尿病との正しい付き合い 軟骨伝導ヘッドホン 世界初 耳塞がず、雑音少なく自然な音
	11月15日	読売新聞	理事長・学長	細井 裕司 光と健康の意外な関係
	11月16日	ニッポン放送 ドクターズボイス	疫学・予防医学 特任准教授	大林 賢史 “関西発”軟骨伝導ヘッドホン
	11月17日	読売テレビ 朝生ワイドす・またん！& ZIP!	理事長・学長	細井 裕司 寝室の明るさと健康の関連について
	11月17日	毎日新聞デジタル	疫学・予防医学 特任准教授	大林 賢史 糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 治療の中止可能症例の投与前関連因子についての検討
	11月17日	Medical Tribune	眼科学 助教	岡部 直子 モルミル、[分子の動きを見る]技術で新しい創薬基盤構築を目指すモルミルが資金調達を実施 分子の動き・状態を感じるセンシング技術を活用した創薬基盤技術を開発する「モルミル」が資金調達
	11月25日	日経バイオテック	未来基礎医学 准教授	森 英一郎 糖尿病について
	11月25日	創業手帳	未来基礎医学 准教授	森 英一郎 1型糖尿病発症にインフルが関与？ target trial emulation で検証
	11月5日～26日(毎週土曜)	ラジオ大阪 あすの健康を願って	地域医療学講座 教授	赤井 靖宏 奈良県大病院「新駅」周辺まちづくり 県、近鉄など4者協定
	11月28日	Medical Tribune	公衆衛生学/ 糖尿病・内分泌内科学 助教	西岡 祐一 光の睡眠への影響と予防策について解説
	11月30日	奈良新聞	理事長・学長	細井 裕司 キャンパス移動周辺整備で連携 医大・近鉄・県・橿原市
12月1日	ワシントンポスト(米国)ウェブ版	疫学・予防医学 特任准教授	大林 賢史 自動車内装部品向け金型製作の KTX 創業ベンチャーに2千万円出資 初出資の医療分野で貢献 神経難病治療薬の研究開発費へ	
12月2日	朝日新聞			
12月3日	中部経済新聞	未来基礎医学 准教授	森 英一郎 保育士と保護者計2091人の保育満足度調査「自分が満足できる保育をすれば、親の満足度も上がる」って	
12月20日	臨床育児・保育研究会 エデュカーレ113号(2023年1月号)	教育開発センター 助教	城戸 楓 室温低下が血圧にどう影響するかを解説	
2023年	1月1日	朝日新聞	疫学・予防医学 教授	佐伯 圭吾 今後注目！「軟骨伝導」
	1月6日	NHK 奈良 ならナビ	理事長・学長	細井 裕司 もう“めまい”に悩まない！★解明！耳の迷宮 SP
	1月12日	NHK あしたが変わるトリセツショー	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授	北原 紘 带状疱疹 コロナ禍で増える恐れ ワクチンで予防 転倒、骨折、寝たきりのリスクもある『ふらつき』その原因は、意外な場所に！？その原因は、意外な場所に！？
	1月18日	朝日新聞 BS朝日	皮膚科学 教授	浅田 秀夫
	1月28日	草野 仁の名医が寄りそう！ カラダ若返り TV	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授	北原 紘

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

皆様のご協力により第83号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

